

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 110

絵 南 方 因 遺 記 跡

一般国道53号キャブシステム  
建設工事に伴う発掘調査

1996

建設省岡山国道工事事務所  
岡山県教育委員会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 110

絵 南 図 方 遺 遺 跡 跡

一般国道53号キャブシステム  
建設工事に伴う発掘調査

1996

建設省岡山国道工事事務所  
岡山県教育委員会

## 序

一般国道53号いづみ町キャブ・システムは快適な都市環境を形成するために、道路上の電線類を集約して地中化し、将来の高度情報化社会における電線類の需要増大にも対応できる、ケーブルボックス（通称キャブ）を道路下に整備し、21世紀を目前にした新たな都市基盤を形成するものである。

この計画区域には、絵図遺跡・南方遺跡が所在しているため、遺跡の発掘調査を岡山県教育委員会に委託した。その結果、旧河道や土壙墓が発掘され、土器や石器が出土するなど、弥生時代の集落跡の一端が明らかとなった。

本書は、一般国道53号いづみ町キャブ・システム工事における絵図遺跡・南方遺跡の発掘調査の記録であり、これが埋蔵文化財に対する認識と理解を深めるとともに、学術・文化等のため広く活用されることを期待するものである。

なお、この発掘調査ならびに本書の編集に当たられた岡山県教育委員会をはじめとする関係各位の御尽力に対し、深甚なる謝意を表します。

平成8年3月

建設省岡山国道工事事務所

所長 酒井利夫

## 序

岡山南部の平野は、古来より栄えた吉備文化の中心であります。岡山市街地の北西部とりわけ旭川東岸一帯は、津島遺跡・南方遺跡・絵図遺跡・上伊福遺跡などの、弥生時代を中心とする全国的にも著名な集落遺跡が集中しています。

このたび、絵図遺跡・南方遺跡が所在する絵図町・清心町一帯の国道53号の歩道の下に、電線類をまとめて埋設するキャブシステム工事が、建設省によって計画されました。岡山県教育委員会は、建設省岡山国道工事事務所と遺跡保存の協議を重ねてきましたが、やむなく記録による保存の措置をはかることになり、発掘調査を実施しました。

調査の結果、幅が狭く、全長600mもの長大な調査区ではありましたが、絵図遺跡では弥生時代の土壙や柱穴などの遺構が検出されました。また、絵図遺跡と南方遺跡を分かつ河道の存在を明らかにすることができました。一方、南方遺跡においては、弥生時代の土壙墓などが検出され、集落遺跡の一端を窺うことができるとともに、古代末の条里に比定される溝が見つかるなど貴重な資料を得ることができました。

本報告書が、文化財の保護・保存のために活用され、また、地域史研究の一助となれば幸いと存じます。

最後に、発掘調査および報告書の作成にあたっては、一般国道53号キャブシステム建設工事に伴う埋蔵文化財保護対策委員会の先生方から種々の御教示、御指導を得、また建設省岡山国道工事事務所をはじめ、地元の関係各位からも御協力を賜りました。記して厚く御礼申し上げます。

平成8年3月

岡山県教育委員会

教育長 森 崎 岩之助

## 例　　言

1. 本書は、一般国道53号いづみ町キャブシステム建設工事に伴い、建設省中国地方建設局岡山国道工事事務所の委託を受け、岡山県教育委員会が発掘調査を実施した報告書である。

2. 本書には、岡山市絵図町・清心町に所在する絵図遺跡・南方遺跡を収載している。

3. 発掘調査および報告書作成にあたっては、一般国道53号キャブシステム建設工事に伴う埋蔵文化財保護対策委員会を設け、下記の方々に委員を委嘱した。対策委員各位からは終始有益なご指導とご助言をいただいた。記して深く感謝の意を表す次第である。

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

角田　茂（元岡山市立岡輝中学校教諭）

西川　宏（元山陽女子高等学校教諭）

高橋　護（ノートルダム清心女子大学家政学部教授）

稲田孝司（岡山大学文学部教授）

小林博昭（岡山理科大学教養部教授）

絹川一徳（岡山大学文学部助手）1995年3月まで

松木武彦（岡山大学文学部助教授）1995年4月から

4. 発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センターが担当し、平成6年4月から同年11月まで福田正継（7月から）・内藤善史（6月まで）・大森善市が行なった。

5. 報告書の作成は、岡山県古代吉備文化財センターにおいて、平成7年4月から6月まで内藤が専従し、文化財センター職員の協力を得て行なった。

6. 本書の編集・構成・本文の執筆は、内藤が担当した。

7. 植物珪酸体分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼し、報告を得ている。

8. 本書に用いた高度は海拔高であり、方位は磁北である。

9. 第2図は、国土地理院発行の1:25,000地形図「岡山北部」・「岡山南部」を複製し、加筆したものである。

10. 第26図は、岡山市教育委員会作成の遺跡地図（1:10,000）を複製し、加筆したものである。

11. 本報告書の遺構および遺物実測図の縮尺率は、下記のとおりに統一している。

遺構

土壌 1/30 溝断面図 1/30

遺物

土器 1/4 土製品・石器 1/2 玉類 1/1

12. 出土遺物ならびに図面・写真等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325-3）において保管している。

# 本文目次

序	
例 言	
目 次	
第1章 地理的・歴史的環境	1
第2章 調査の契機および経過	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査体制	5
第3節 日誌抄	6
第3章 調査の概要	7
第1節 調査の経過	7
第2節 絵図遺跡	8
(1) 1区	8
(2) 2区	12
第3節 南方遺跡	15
(1) 3区	15
(2) 4区	17
(3) 5区	18
(4) 6区	19
第4章 小 結	21
付載 植物珪酸体からみた稲作の検討	24

# 図 目 次

第1図 遺跡位置図	1	第8図 1区包含層出土遺物(2) (1/4)	11
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2	第9図 1区包含層出土遺物(3) (1/2)	12
第3図 調査区位置図 (1/3,000)	7	第10図 2区調査位置図 (1/1,000)	12
第4図 1区調査位置図 (1/1,000) 遺構配置図 (1/200)	8	第11図 2区遺構配置図 (1/200) 断面図 (1/400、1/200)	13
第5図 1区断面図 (1/400、1/200)	9	第12図 2区グリッド断面柱状図 (1/40)	13
第6図 溝-1・2断面図 (1/30)	9	第13図 溝-3・4・5断面図 (1/30)	14
第7図 1区包含層出土遺物(1) (1/4)	10	第14図 溝-3・5出土遺物 (1/4・1/2)	14

第15図	2区包含層出土遺物(1/4) ······ 14	第21図	5区調査位置図(1/1,000) ······
第16図	3区調査位置図(1/1,000) ······ 15		遺構配置図(1/200) ······ 18
第17図	3区遺構配置図(1/200) ······ 断面図(1/400、1/200) ······ 15	第22図	5区断面図(1/400、1/200) ······ 出土遺物(1/4) ······ 18
第18図	土壌墓-1・2(1/30)、土壌墓-1 ・土壌墓群出土遺物(1/4) ······ 16	第23図	6区調査位置図(1/1,000) ······ 19
第19図	3区包含層出土遺物(1/4・1/1) ··· 16	第24図	6区遺構配置図(1/200)・断面図(1/ 400、1/200)・溝-7断面図(1/30) ··· 19
第20図	4区調査位置図(1/1,000)・断面図 (1/400、1/200)・出土遺物(1/4) ··· 17	第25図	6区包含層出土遺物(1/4) ······ 20
		第26図	周辺微高地推定図(1/10,000) ······ 22

## 図 版 目 次

図版1	1 1区調査前の状況(北東から)	3 2区グリッド(c)断面(東から)
	2 1区調査時周囲の状況(東から)	4 2区グリッド(d)断面(東から)
	3 1区調査時周囲の状況(南西から)	5 2区グリッド(e)断面(東から)
図版2	1 1区マンホールI作業風景(東から)	6 2区グリッド(f)断面(東から)
	2 1区マンホールI北半(東から)	図版9 1 3区土壌墓-1半掘(北東から)
	3 1区マンホールI南半(東から)	2 3区土壌墓-1内人骨(北西から)
図版3	1 1区マンホールI南半 西壁断面(東から)	3 3区土壌墓-1(北西から)
	2 1区溝-1断面(東から)	図版10 1 3区土壌墓群(北東から)
	3 1区溝-1(南西から)	2 3区作業風景(北東から)
図版4	1 1区南部(北東から)	3 3区全景(南から)
	2 1区溝-2検出状況(北東から)	図版11 1 4区作業風景(北東から)
	3 1区溝-2(北東から)	2 5区マンホールIV東壁断面 (北西から)
図版5	1 2区側溝掘り下げ(南から)	3 5区マンホールIV東壁断面 (北西から)
	2 2区溝-3掘り下げ(東から)	図版12 1 5区マンホールIV(南から)
	3 2区溝-3(北東から)	2 5区北壁断面(南から)
図版6	1 2区溝-3(南西から)	3 6区溝-7・8(南から)
	2 2区溝-3(南西から)	図版13 絵図遺跡出土土器(1)
	3 2区溝-4(南西から)	図版14 1 絵図遺跡出土土器(2)
図版7	1 2区溝-5断面(西から)	2 絵図遺跡出土石器
	2 2区溝-5(北東から)	図版15 南方遺跡出土土器
	3 2区西壁断面(東から)	図版16 植物珪酸体
図版8	1 2区グリッド(a)断面(東から)	
	2 2区グリッド(b)断面(東から)	

# 第1章 地理的・歴史的環境

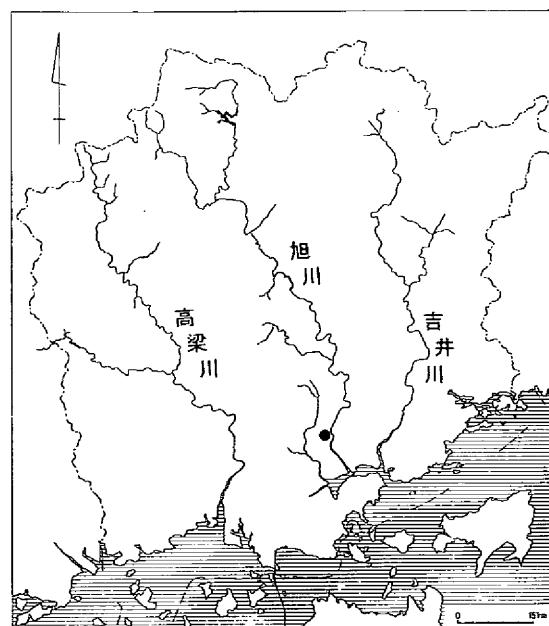
絵図遺跡と南方遺跡は、岡山駅から1kmほど北、岡山市街地北部の岡山市絵図町、清心町、南方に所在する遺跡である。

岡山県には、いずれも中国山地に源を発し、県の中央部に広がる吉備高原を貫いて、ほぼ南北に流走して瀬戸内海に注ぐ吉井川・旭川・高梁川の三大河川がある。岡山平野は、主としてこの三大河川によって形成された平野であるが、その形成時期は比較的新しいとみられる。三大河川の一つ旭川は、中国山地・吉備高原を挟りながら流れ下る時の大量の土砂が、南部に肥沃な沖積平野を形成している。弥生時代から古墳時代頃の海岸線は、操山山塊から旧国道2号線の少し南に位置する、天瀬遺跡や鹿田遺跡などが南端であると推定されている。この海岸線と、東は芥子山から古都にかけての山塊、北は半田山山塊と竜の口山塊、西は京山から矢坂山にかけての山塊にそれぞれ区切られた地域が平野部である。

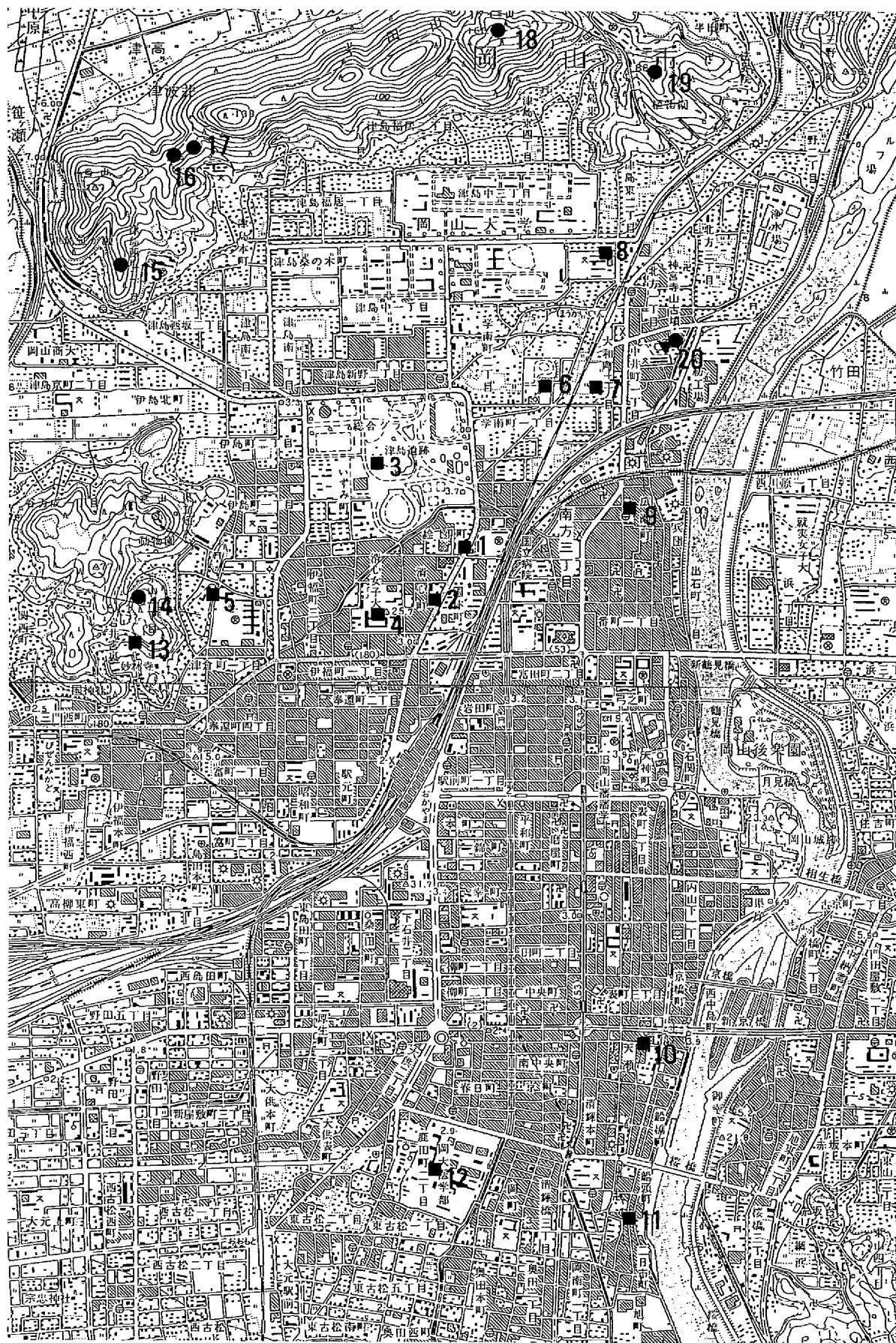
弥生時代から古墳時代にかけて、旭川の左岸側の平野部では、百間川遺跡群・雄町遺跡など微高地上の集落遺跡が広がり、丘陵上には備前車塚古墳・湊茶臼山古墳・金蔵山古墳をはじめ、操山古墳群・竜の口山古墳群などが築造されている。一方旭川の右岸側の平野部では、津島遺跡・上伊福遺跡・天瀬遺跡などの集落遺跡が広がり、丘陵上には都月坂2号墳丘墓をはじめ、七つ塙古墳群・一本松古墳群などが築造されている。

絵図遺跡と南方遺跡は、旭川の右岸側に形成された微高地の遺跡である。なお、南方遺跡は南方から国体町・清心町などにかけて広がる遺跡の総称で、弥生時代を中心とした大集落遺跡である。南方遺跡は、これまでに山陽新幹線敷設による市道つけ替え工事や、国立病院の施設建設に伴い発掘調査が行なわれ、弥生時代中期前葉から中期中葉を中心にして、堅穴住居・土壙墓・各種土壙・灰穴遺構・溝など様々な遺構が検出され、大量の土器と共に、石器・分銅形土製品・埋葬人骨など多様な遺物が出土している。<sup>(1)</sup> また、民間開発によるマンション建設や、現在も継続して行なわれている岡山済生会病院の建設・建て替え工事に伴い、岡山市教育委員会が広い範囲の発掘調査を実施し、次々に新しい知見が加えられ、南方遺跡における微高地や河道の在り方が明らかになりつつある。<sup>(2)</sup>

旭川の右岸側に形成された平野部や、これを取り囲むように所在している山塊や丘陵部には、旧石器時代や縄文時代前・中期の遺跡はまだ知られていない。この地域において明らかになっている最も早い時期から存在している遺跡としては、津島遺跡がある。津島遺跡は、岡山県総合グラウンドを中心に所在する弥生時代の大規模遺跡として知られており、縄文時代晩期の包含層も確認されている。また、津島遺跡の北部に位置する津島岡



第1図 遺跡位置図



第2図 周辺遺跡分布図 (1 / 25,000)

大遺跡では、縄文時代後期の土器も大量に出土し、縄文時代晩期になると貯蔵穴などの遺構も検出され、縄文時代後期の早い時期から集落の営まれていたことが明らかになりつつある。<sup>(3)</sup>

弥生時代に入ると、平野部における遺跡は飛躍的に増え、微高地上に集落が、低湿地に水田が営まれ、いくつもの「ムラ」が形成されていく。それらの遺跡として縄文時代から継続する津島遺跡をはじめ、前期後半からは南方遺跡が、中期からは絵図遺跡や上伊福遺跡それに鹿田遺跡が、また、後期からは天瀬遺跡や二日市遺跡などがある。津島遺跡では、微高地上で堅穴住居や井戸のほか糀を貯蔵していた穴倉などが、低湿地で矢板の跡や木杭の列など水田関連遺構の存在が明らかになっている。<sup>(4)</sup> このほか、一部の調査が行われている上伊福遺跡<sup>(5)</sup>・津島江道遺跡<sup>(6)</sup>・天瀬遺跡<sup>(7)</sup>・鹿田遺跡<sup>(8)</sup>・中溝遺跡・北方地蔵遺跡<sup>(9)</sup>などの平野部の遺跡でも、微高地上に堅穴住居・井戸・溝・土壙墓・各種土壙・柱穴などの遺構が、低湿地に水田関連遺構が検出されている。なお、これらの遺跡は、概ね古墳時代前半にかけても継続されていくようである。

一方、これら沖積平野を見下ろす北側の半田山山塊と烏山の間の鞍部には、弥生時代の遺跡で特に著名なもの一つである。都月坂2号弥生墳丘墓が存在する。尾根の隆起部を利用して長辺約20m・短辺約16m・高さ約2mの長方形の墳丘が築造され、墳丘のほぼ中央に堅穴式石室が構築されている。引き続いてこの都月坂の尾根上には、最古の埴輪とされる「都月型」を出土した都月坂1号墳をはじめ、古墳時代初頭の古墳が築造されている。都月坂1号墳は全長33mを測る小形の前方後方墳で、尾根の自然地形を利用して2段に築成され、後方部中央に墳丘長軸に対して直角方向に堅穴式石室が設けられている。<sup>(10)</sup> また、烏山から南方に延びる尾根上にも、約9基からなる七つ塹古墳群が築造されている。古墳群の中核となる七つ塹1号墳は全長47.5mを測る前方後方墳で、前方部と後方部の中央にそれぞれ堅穴式石室が構築されている。後方部のものは長さ5.1m・幅0.9mを測り、割竹形木棺が置かれたものとみられる。一方、前方部の石室は、長さ1.45m・幅0.45~0.5mほどの小形なものである。くびれ部斜面などからは、「都月型」の特殊器台形埴輪や特殊壺形埴輪が見つかっている<sup>(11)</sup>。このように半田山丘陵は、弥生時代の終末から古墳時代初頭にかけて、墓制の変遷をたどるうえで重要な地域である。

### 周辺の主要遺跡名称

- |           |                |
|-----------|----------------|
| 1. 絵図遺跡   | 11. 二日市遺跡      |
| 2. 南方遺跡   | 12. 鹿田遺跡       |
| 3. 津島遺跡   | 13. 妙林寺遺跡      |
| 4. 上伊福遺跡  | 14. 津倉古墳       |
| 5. 上伊福西遺跡 | 15. 七ツ塹古墳群     |
| 6. 中溝遺跡   | 16. 都月坂2号弥生墳丘墓 |
| 7. 北方地蔵遺跡 | 17. 都月坂1号墳     |
| 8. 津島江道遺跡 | 18. ダイミ山古墳     |
| 9. 広瀬遺跡   | 19. 一本松古墳群     |
| 10. 天瀬遺跡  | 20. 神宮寺山古墳     |

古墳時代前期には、北側の半田山山塊のダイミ山山頂に一辺20mの方墳ダイミ山古墳が、その東には全長65mの前方後円墳一本松古墳を中心とした一本松古墳群が築かれ、西側の京山山塊の南側山頂には、全長45mの前方後方墳津倉古墳が築造されている。また、東側の旭川右岸の御野小学校の北には、全長150m程の三段築成の前方後円墳神宮寺山古墳が築造されている。<sup>(12)</sup>

古墳時代後半以降になると、この旭川両岸の平野部および平野を取り囲む丘陵上の遺跡が激減する。それでも左岸側は、百間川遺跡群や湯迫古墳群・四御神古墳群・操山古墳群などの存在が知られている。しかし、右岸側では弥生時代の大規模遺跡である津島遺跡や上伊福遺跡、あるいはその関連遺跡においても、堅穴住居などの遺構が検出されるのは古墳時代前期までで、その後の集落はきわめて少なくなる。また、右岸側平野を見下ろす位置に築かれている古墳は確認されていない。古墳時代後半の古墳は、さらに西の平野部を見下ろす丘陵上や、北の笹が瀬川流域に見受けられるのみである。

古代においても、旭川西岸から一宮方面に抜ける古代山陽道が、半田山山塊の山裾を通りいたとみられるが、これに関する遺構などは確認されていない。また、奈良時代以前の古代寺院も左岸側では、5か所程知られているが、右岸側には皆無である。条里の区割りはよく遺存しており<sup>(13)</sup>、無論この地域から人々の生活の場が消えた訳ではない。しかし、旭川西岸の平野部は、古代社会において主要な役割を担う地域ではなくなったと推測される。

中世においては、荘園を中心に市場集落が発達することとなり、鹿田遺跡の発掘調査でも古代末から中世の遺構が検出され、土器などの遺物が出土するなど<sup>(14)</sup>、鹿田荘は岡山平野の中心的役割を担うようになり、鹿田荘や広瀬郷では市が発達していく。それらの発展を踏まえ、近世には岡山城が築かれ、城下町として発展し、現在の岡山市街地の形成に引き継がれているのである。

### 註

1. 岡山市遺跡調査団 『南方遺跡発掘調査概報』 1971年  
岡山市遺跡調査団 『南方（国立病院）遺跡発掘調査報告』 1981年  
岡山県教育委員会 『南方遺跡』『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』40 1981年
2. 岡山市教育委員会 『上伊福・南方（済生会）遺跡現地説明会資料』 1993年  
岡山市教育委員会 『南方（国体開発）遺跡－第二回－現地説明会資料』 1994年
3. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター『津島岡大遺跡』4 1994年
4. 近藤義郎 『津島遺跡』『岡山県史』第18巻考古資料 岡山県 1986年
5. 中野雅美・根木修 『上伊福九坪遺跡』『岡山県史』第18巻考古資料 岡山県 1986年
6. 岡山県教育委員会 『岡山県埋蔵文化財報告』18 1988年
7. 出宮徳尚 『天瀬遺跡』『岡山県史』第18巻考古資料 岡山県 1986年
8. 山本悦世 『鹿田遺跡』『岡山県史』第18巻考古資料 岡山県 1986年  
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター『鹿田遺跡』I 1988年  
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター『鹿田遺跡』II 1990年
9. 『岡山県教育委員会 岡山県埋蔵文化財報告』25 1995年
10. 近藤義郎 『都月坂2号弥生墳丘墓』『岡山県史』第18巻考古資料 岡山県 1986年  
近藤義郎 『都月坂1号墳』『岡山県史』第18巻考古資料 岡山県 1986年
11. 近藤義郎ほか 『岡山市 七つ塚古墳群』 七つ塚古墳群発掘調査団 1987年
12. 鎌木義昌 『神宮寺山古墳』『岡山県史』第18巻考古資料 岡山県 1986年
13. 石田寛 『岡山市隣接地域の条里』『岡山市史』古代編 岡山市 1962年
14. 註8.

## 第2章 調査の経緯および経過

### 第1節 調査に至る経緯

一般国道53号いづみ町キャブシステム建設工事は、岡山市街地など都市部を中心に、電線類など各種ケーブルを集約的に地中埋設化する事業の一環として計画されたもの一つである。国道53号線は、岡山市街地を中心部から北西に延びている幹線道路である。この国道53号線の路線上には、津島遺跡をはじめ南方遺跡や絵図遺跡など、弥生時代から古墳時代の集落遺跡が以前から知られていた。

建設省中国地方建設局は、この地域の工事に先立ち平成5年3月16日付で、岡山県教育委員会に協議書を提出した。これを受け、協議の結果岡山県教育庁文化課は工事施工に際しては立会を行い、重要な遺構などが発見された場合には別途協議することで合意に達した。

平成5年4月27・28日の両日、絵図町内における工事の立会で、遺構の存在が確認された。このため急遽、施工区間の発掘調査を平成5年5月17日から28日まで実施した。調査の結果、弥生時代から古墳時代の井戸1基・溝4条・土壙や柱穴200基以上などの遺構が検出された。このような状況から未施工の区間は、先に発掘調査を行なう必要があり、工事は次年度に繰り越された。

工事の繰り越されたOSKスポーツ会館前から清心町交差点までの発掘調査は、岡山県教育委員会が建設省中国建設局の委託を受け、岡山県古代吉備文化財センターの調査員2名が平成6年4月から実施することになった。

### 第2節 調査の体制

#### 一般国道53号キャブシステム建設工事に伴う埋蔵文化財保護対策委員会

水内昌康	岡山県文化財保護審議会委員	小林博昭	岡山理科大学理学部教授
角田 茂	元岡山市立岡輝中学校教諭	絹川一徳	岡山大学文学部助手
西川 宏	元山陽女子高等学校教諭		(1995年3月まで)
高橋 譲	ノートルダム清心女子大学 家政学部教授	松木武彦	岡山大学文学部助教授
稻田孝司	岡山大学文学部教授		(1995年4月から)

#### 平成6年度

##### 岡山県教育委員会

教育長	森崎岩之助	課長代理	松井新一
教育次長	岸本憲二	課長補佐	高畠知功
岡山県教育庁文化課		(埋蔵文化財係長)	
課長	大場 淳	主任	若林一憲

## 岡山県古代吉備文化財センター

所長	河本 清
次長	葛原克人
<b>総務課</b>	
課長	丸尾洋幸
課長補佐（係長）	杉田卓美
主査	石井善晴
主任	三宅秀吉

## 調査第三課

課長	柳瀬昭彦
文化財保護主幹	福田正継（調査担当）
<b>第二係</b>	
係長	江見正己
文化財保護主査	内藤善史（調査担当）
文化財保護主査	大森善市（調査担当）

## 平成7年度

## 岡山県教育委員会

教 育 長	森崎岩之助
教育次長	黒瀬定生

## 岡山県教育庁文化課

課 長	大場 淳
課長代理	樋本俊二
参 事	葛原克人
課長補佐（埋蔵文化財係長）	高畠知功
主 任	若林一憲

## 岡山県古代吉備文化財センター

所 長	河本 清
次 長	高塚恵明

## 次長（文化課本務）葛原克人

総務課	
課 長	丸尾洋幸
総務主幹	守安邦彦
課長補佐（係長）	井戸丈二
主 査	石井善晴
主 任	木山伸一
調査第三課	
課 長	柳瀬昭彦
<b>第二係</b>	
課長補佐（係長）	岡本寛久
文化財保護主査	内藤善史（報告書担当）

発掘調査および報告書の作成にあたっては、扇崎由氏（岡山市教育委員会）をはじめ、文化財センター職員の諸氏から貴重ご御助言をいただきました。また、建設省岡山国道工事事務所をはじめ、工事を受注された㈱日本舗道など関係機関、地元の方々から有形無形のご援助、ご協力を賜りました。記して感謝の意を表します。

## 第3節 日誌抄

## 平成6年

4月21日	現場事務所開設、資材搬入
6月4日	絵図遺跡 2区 調査開始
7月1日	絵図遺跡 1区 調査開始
7月5日	絵図遺跡 2区 調査終了
8月10日	埋蔵文化財保護対策委員会開催
8月24日	絵図遺跡 1区 調査終了
8月25日	南方遺跡 3区 調査開始
9月20日	南方遺跡 4区 調査開始

## 平成6年

9月21日	南方遺跡 3区 調査終了
10月16日	南方遺跡 4区 調査終了
10月17日	南方遺跡 6区 調査開始
11月7日	南方遺跡 5区 調査開始
11月16日	南方遺跡 6区 調査終了
11月28日	埋蔵文化財保護対策委員会開催
11月30日	南方遺跡 6区 調査終了、 資材撤収

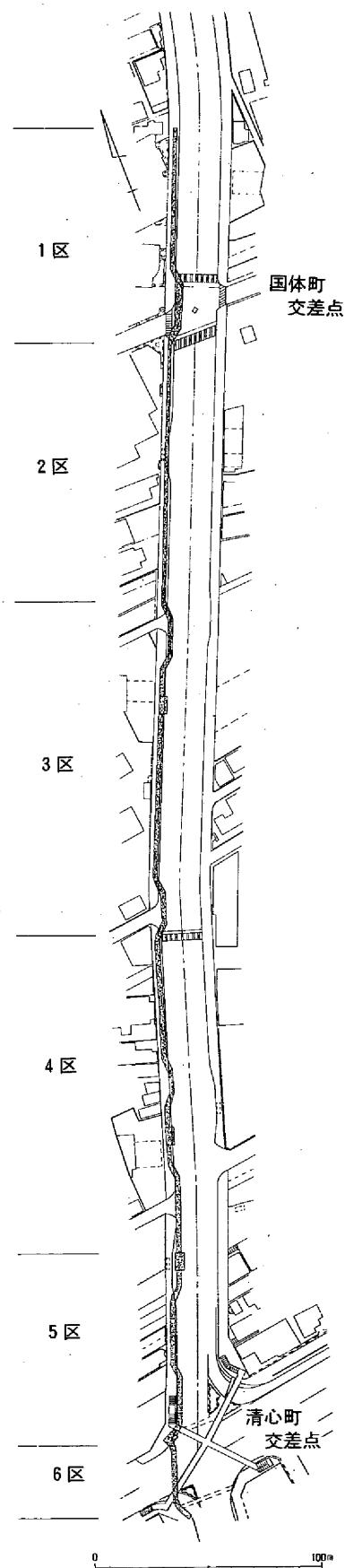
## 第3章 調査の概要

### 第1節 調査の経過

調査は、前年度工事立会を受けて行われた発掘調査の結果に基づき、キャブ工事に伴い掘削される範囲を、工事に並行して実施した。調査範囲は、国道53号線の北行き車線と西側の歩道境にはほぼ沿う幅約2m、総延長600m以上におよぶ。これは前年度調査を実施し、工事が終了しているOSKスポーツ会館北東角の工区境から、清心町交差点を横切った岡山済生会病院の北東角までに当たる。このように長大な範囲であるため、調査は全面調査というより非常に細長いトレンチ調査とでもいうような様相を呈している。

調査は、工事と一体化して行なわれるため、工事工程に従い工区ごとに進められた。工区は6工区に分割されており、調査区もそれに準じ、北から南に向かい順次設定した。前年度施工区の境から国体町交差点を横切り、岡山フェアレーンの北東角までを1区とし、以下南に向かい市道501号までを2区、市道509号までを3区、市道702号の南側の駐車場前までを4区、清心町交差点の北側までを5区、清心町交差点を横切り岡山済生会病院の北東角までを6区とした。なお、キャブ工事で繋ぎの部分は「マンホール」と称され、少し広めに掘削される。今回の調査では5か所あり、それぞれ該当する調査区に含めて「マンホールI～V調査区」した。調査地区は、市街地の幹線道路の唯中に位置しており、極めて狭い範囲の作業ヤードが許可されるのみで、排土置場の確保はもとより、重機による掘削もほぼ一度に限られた。このため調査は、鋼矢板を打ち込み後すぐに重機で造成土および中・近世の水田層までを除去してから、遺構の検出を行なうことになった。

調査の結果、1区から2区の北部にかけて、弥生時代から古墳時代の溝や土壙などが検出された。2区では南側に下がる河道の肩部も確認された。3区では北側に下がる河道の肩部が確認され、その南側で弥生時代の土壙墓群が検出された。4区では河道の両肩が検出され、5区中央部では若干の柱穴が検出された。6区では古代の溝および溝の落ち込みが検出された。しかし、夏期は稀にみる酷暑に見舞われ、排気ガスは立ち込め、時には鉄板に覆われた道路の下での調査と、劣悪な環境下で遺構検出を行なわざるを得なかった。また、交差点部分などでは掘削が夜間に限られ、度々深夜の立会を余儀なくされるなど、調査は困難を極めた。



第3図 調査区位置図

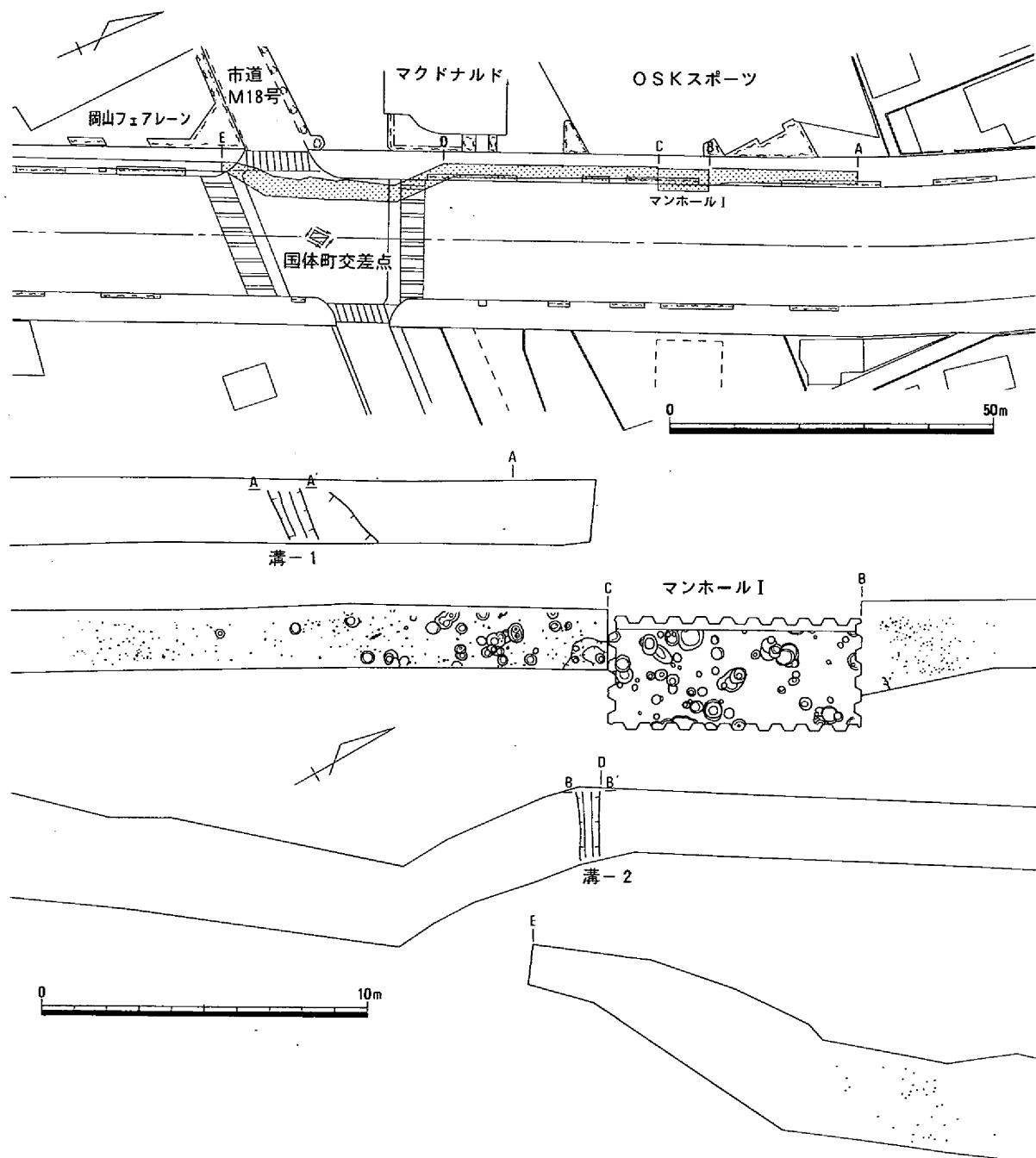
(1 / 3,000)

## 第2節 絵図遺跡

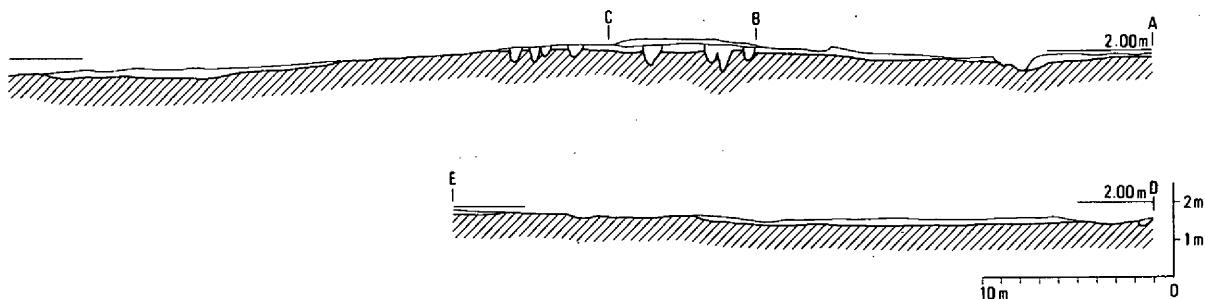
### (1) 1区

#### 1区の概要

1区は、前年度工事が終了したOSKスポーツ会館の北東角から、国体町交差点を横切り、岡山フェアレンの北東角までの約100m間である。OSKスポーツ会館前にマンホールIが設置された。1区の北端近くで南に向かって基盤が1段下がり、その南で溝が1条検出された。また、国体町交差点の北側、マクドナルドの前でも溝が1条検出された。マンホールIおよびその南10m程までは、土壤



第4図 1区調査位置図(1/1,000)・遺構配置図(1/200)



第5図 1区断面図 (1/400, 1/200)

や柱穴状のピット等がまとまって検出されているが、性格を明らかにできたものはない。遺構の上面では土器が多く出土しているが、包含層の遺物との区別が困難で、遺構に伴うものを明らかにすることことができなかった。また、柱穴とみられるものもあるが、調査範囲が狭小で建物などとしてまとまるものはない。マンホールⅠの北側と南側では、非常に多くの杭痕跡が検出されている。また、国体町交差点の部分でも杭痕跡がまとまって検出されている。いずれも直径3~6cmほどで、東西方向に並ぶ可能性が窺え、後世の溝の護岸に打たれた杭の残痕とみられるものである。

1区の基盤層はかなり波打っている。A地点の南で1段下がるが、次第に上がってC地点の南で最も高くなる。C地点の南から次第に下がり、D地点の南側が最も低くなる。C地点の基盤層は海拔2.30mであるが、D地点の南側では海拔1.40mであり、比高差は90cmにおよぶ。この基盤層の上には20cm前後茶灰色粘質微砂の包含層が堆積していた。この包含層は、淡灰黄色粘質微砂の基盤層に接しているが、水田土壤の可能性があるため、植物珪酸体分析を行った。マンホールⅠでは、この包含層の上に暗茶褐色粘質微砂の包含層が堆積し、多くの土器片が出土している。

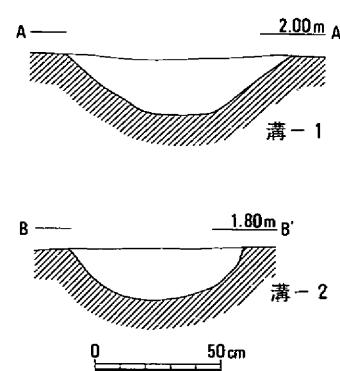
#### 溝-1 (第6図、図版3-2・3)

1区の北端近くで調査区を東-西に横断している溝である。検出できたのは僅か1.3m程で、流走方向は不明である。検出面での規模は、幅85cm・深さ20cm程を測り、底の高さは海拔1.64mである。断面は逆台形を呈し、埋土は暗黄灰色粘質微砂が一層である。甕形土器等の土器片が出土しているが、いずれも細片である。

時期は、出土遺物や検出状況から弥生時代後期とみられる。

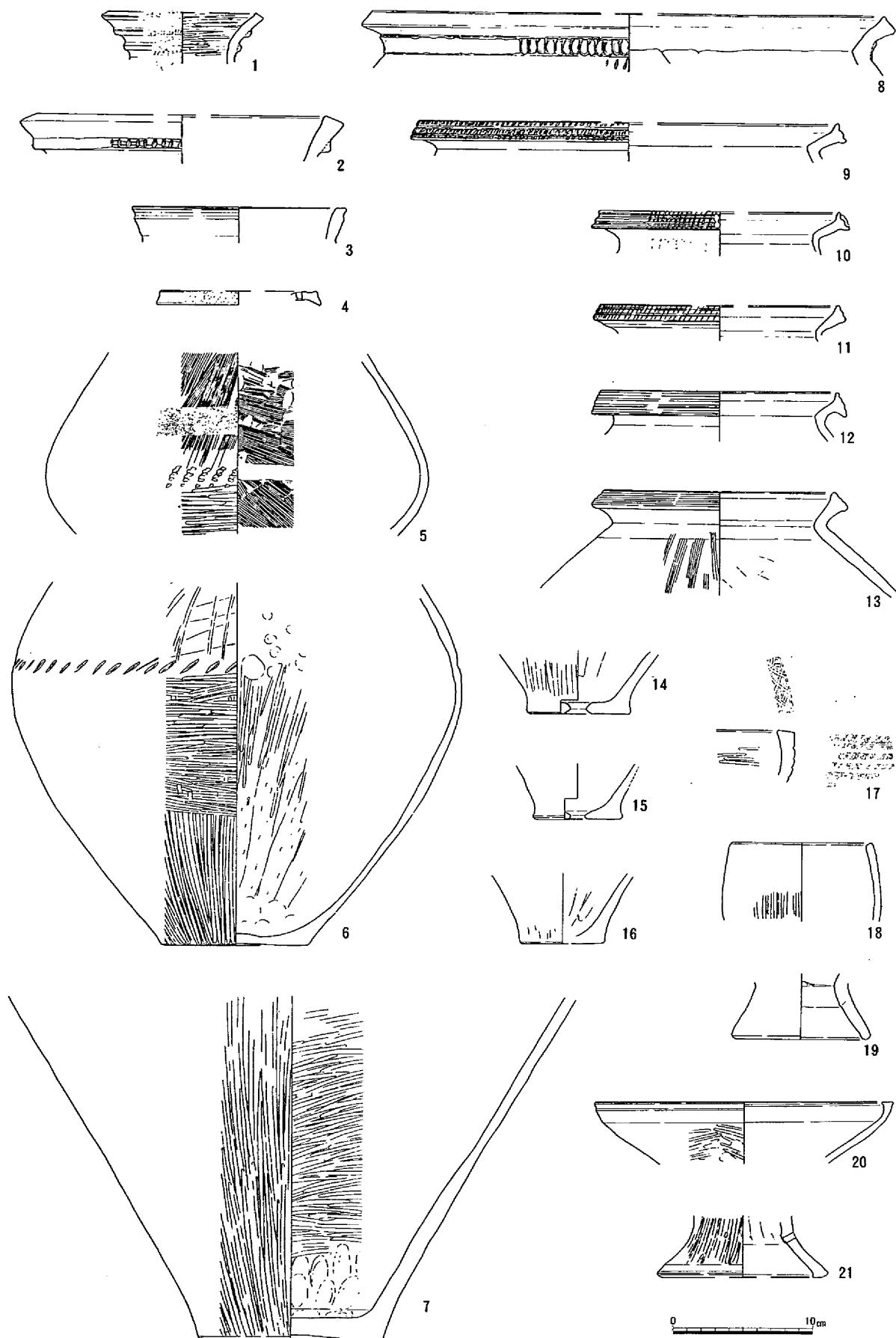
#### 溝-2 (第6図、図版4-2・3)

国体町交差点の北端部において、調査区を南東-北西に横断している溝である。検出できたのは僅か2.3m程で、流走方向は不明である。検出面での規模は、幅70cm・深さ20cm程を測り、底の高さは海拔1.52mである。断面はU字形を呈し、埋土は暗褐灰色粘質微砂が一層である。埋土中に遺物等はみられなかったが、検出状況などから弥生時代後期とみられる。



第6図 溝-1・2断面図

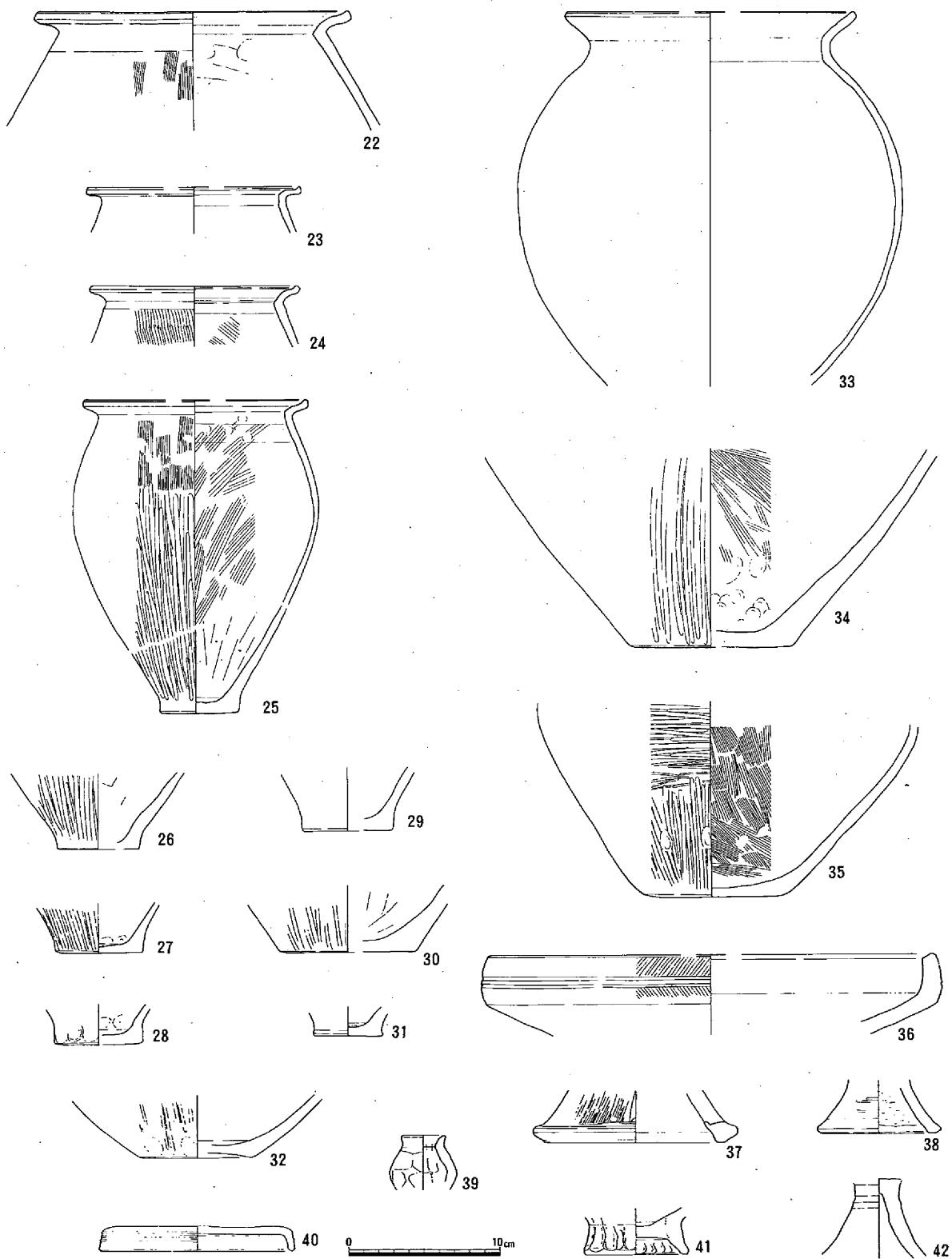
(1/30)



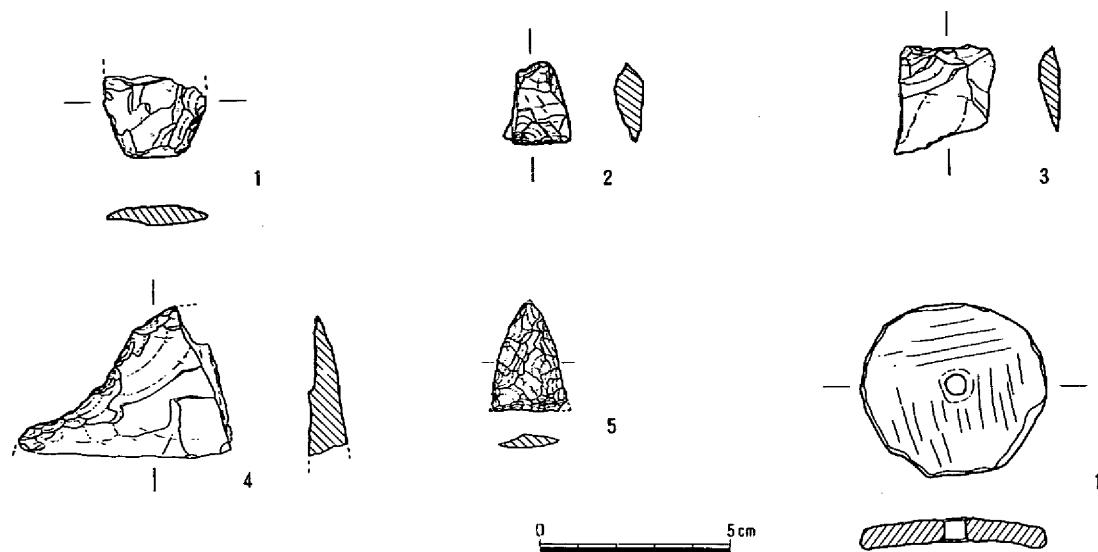
第7図 1区包含層出土遺物(1) (1/4)

## 遺溝に伴わない遺物（第7～9図、図版13・14）

大半は、マンホールIおよびその周辺の暗茶褐色粘質微砂の包含層から出土している。4は丹塗りが施され、口縁部に3個並んで円孔が穿たれている、壺形土器の口縁部片である。10はやや肥厚した口縁端面に2条の沈線を巡らせ、上に刻み目を入れ、浮文を貼り付けている口縁部片である。14・15



第8図 1区包含層出土遺物(2) (1/4)



第9図 1区包含層出土遺物(3) (1/2)

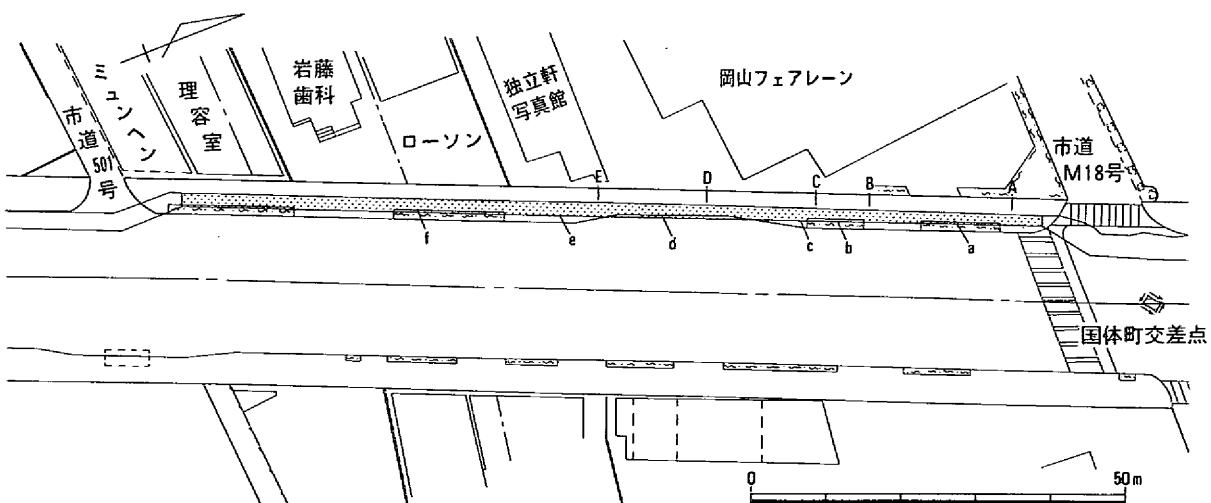
は甕形土器の底部片で、焼成後に底部を穿孔しており、外面に煤が付着している。19は高杯形土器の脚部片で、裾部には交互に2段の円孔が外面から穿たれているが、貫通していない。27は南端部の茶褐色粘質土から出土した甕形土器であるが、器面は剥離していて調整は不明である。

石器はいずれもサヌカイト製で、1は最大幅2.7cm・最大厚0.5cm・重さ3.6gを測る石槍の基部片、2は最大長2.2cm・最大幅1.7cm・最大厚0.7cm・重さ3.2gの楔形石器である。3・4はスクレペー片で、3は最大長3.0cm・最大幅2.5cm・最大厚0.5cm・重さ4.0gを測り、4は一部が残存しているだけの破片で、最大長5.6cm・最大幅4.0cm・最大厚1.0cm・重さ15.7gを測る。5は基部の一部を欠いているが、最大長2.9cm・残存最大幅2.0cm・最大厚0.4cm・重さ2.0gを測る石鎌である。また、1の土製品は、土器片転用の紡錘車である。

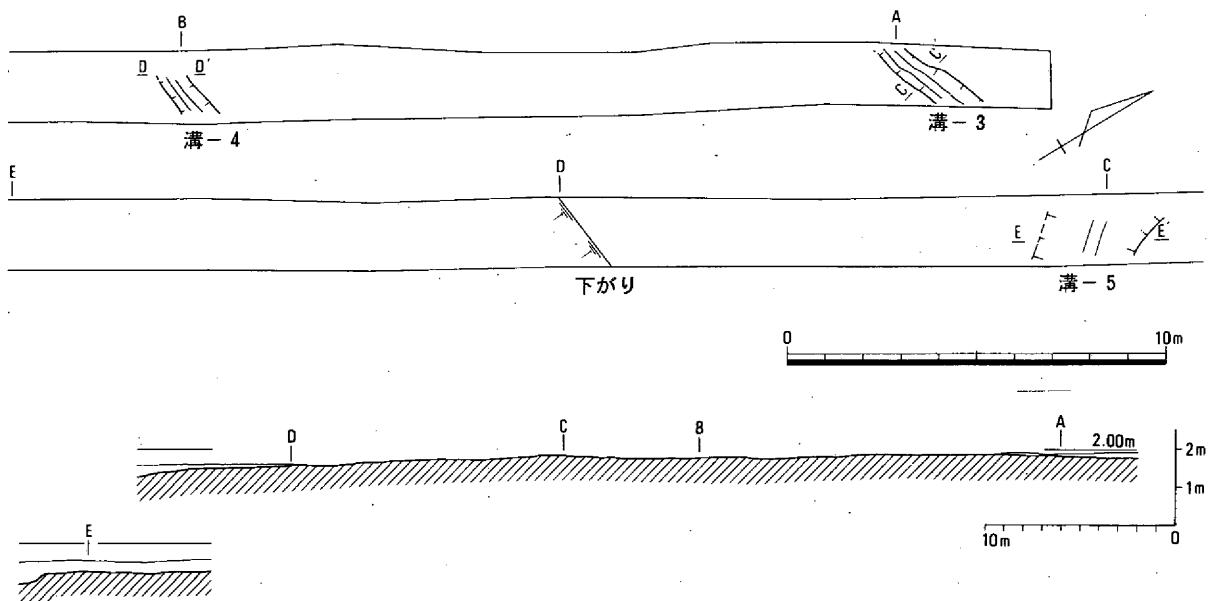
## (2) 2区

### 2区の概要

2区は、国体町交差点から市道501号北側までの約110m間である。遺構は、いずれも北半部から溝



第10図 2区調査位置図 (1/1,000)



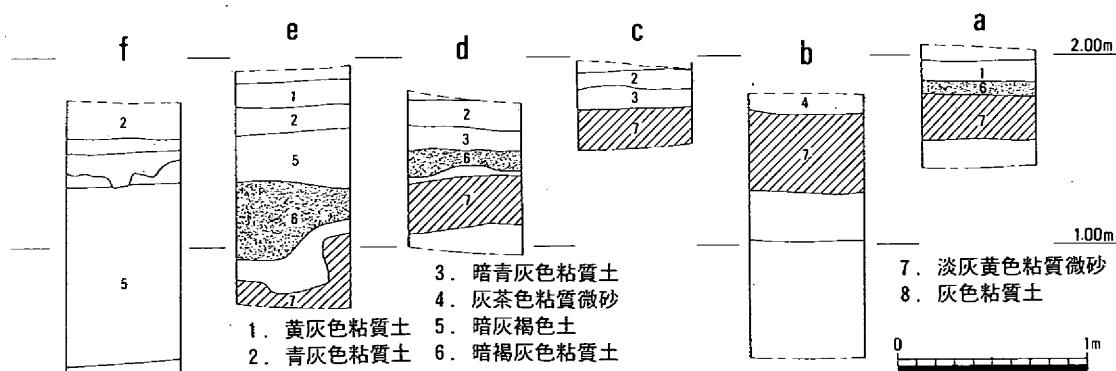
第11図 2区遺構配置図(1/200)・断面図(1/400、1/200)

3条が検出されている。また、北から40m程のD地点において、南側に下がる河道の肩部が東-西に調査区を横断して検出された。河道の肩はD地点から緩やかに下がりはじめ、グリッド(e)から急激に落ち込み、南半はすべてこの旧河道の埋土となる。なお、調査区が狭小なため、この河道を掘り下げることはできなかった。2区北半の基盤層は、比較的平坦ながら次第に下がっている。その上に暗褐灰色粘質微砂の包含層が堆積していたが、遺物はあまり多くない。2区では、土層の確認のためにグリッド(a)～(f)を設定し、堆積土の確認を行なった。その結果は、1～4層は、中・近世の遺物を若干含んでいる。5層からは遺物がほとんど出土していないが、古墳時代の堆積層とみられ、河道上面に厚く堆積している。6層は弥生時代後期の土器が出土している包含層である。7層は淡灰黄色粘質微砂の基盤層とみられ、土器など遺物は出土していない。8層は河道の埋積土である。

2区は、絵図遺跡の南端部に位置しているとみられ、包含層中の遺物も極めて少なくなっていた。

#### 溝-3(第13・14図、図版5-2・3、図版6-1・2)

2区の北端近くで調査区を東-西に横断している溝である。検出できたのは僅か2m程で、流走方向は不明である。検出面での規模は、幅80cm・深さ20cm程を測り、底の高さは海拔1.75mである。断面は椀状を呈し、埋土は二層である。遺物は西端部でまとまって出土しているが、いずれも細片であ



第12図 2区グリッド断面柱状図(1/40)

る。43は少し拡張した口縁部端面に沈線4条が巡る壺形土器の口縁部片である。44は体部外面をタタキ調整しただけのいわゆる製塩土器の台部片である。この他に、「く」の字状に外反した口縁端部が上方に立ち上がり、端面外面に数条の櫛描き沈線を巡らせる甕形土器等が出

土している。

時期は、古墳時代

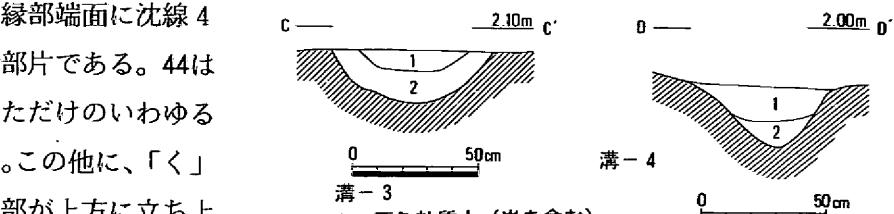
初頭とみられる。

溝-4（第13図、

図版6-3）

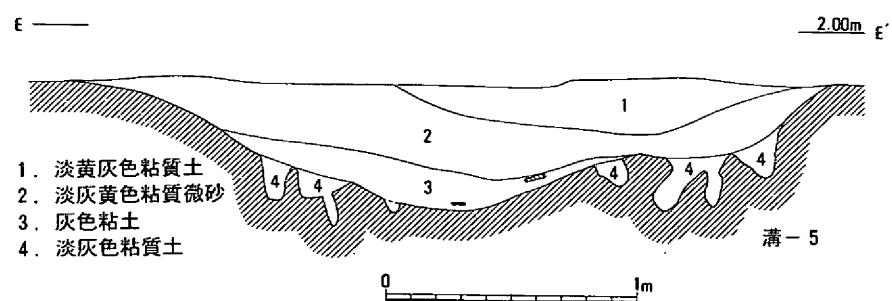
2区の北部、溝-

3の南17m程で調査



溝-3  
1. 灰色粘質土(炭を含む)  
2. 淡灰色粘質土

溝-4  
1. 黄灰色粘質微砂  
2. 淡黄灰色粘質土

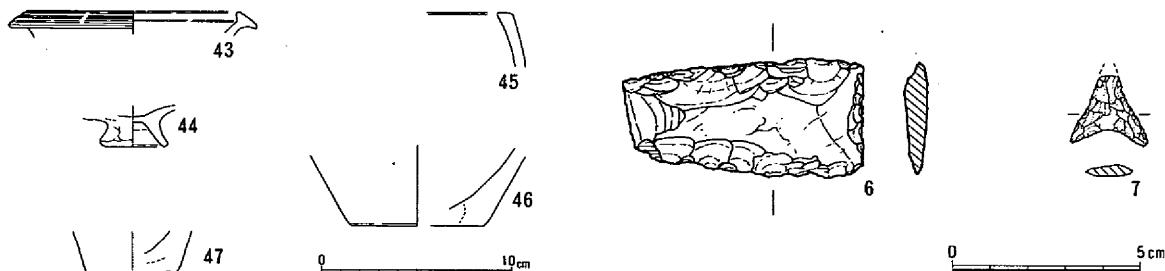


第13図 溝-3・4・5断面図 (1/30)

区を東-西に横断している溝である。検出できたのは僅か12m程で、流走方向は不明である。検出面での規模は、幅70cm・深さ25cm程を測り、底の高さは海拔1.55mである。断面はU字状を呈し、埋土は二層ある。出土遺物としては土器の細片が若干あるが、時期等は不明である。

溝-5（第13・14図、図版7-1・2）

2区の北部で調査区を北東-南西に横断している溝である。検出できたのは僅か1m程で、流走方向は不明である。検出面での規模は、幅250cm・深さ60cm程を測り、底の高さは海拔1.25mである。

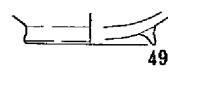


第14図 溝-3・5出土遺物 (1/4・1/2)

緩やかに下がる断面で、埋土は三層ある。2・3層から、土器片および石器が出土している。土器はいずれも細片である。石器はサヌカイト製で、6は最大長6.4cm・最大幅3.1cm・最大厚0.5m・重さ15.4gを測るスクレイパーである。7は先端部を欠いているが、基部に挟りの入る石鎌で最大厚0.3cm・重さ0.7gを測る。

遺構に伴わない遺物

包含層等から若干土器片が出土しているが、いずれも細片である。48は弥生時代の包含層から出土した、にぶい橙色を呈する土器の底部片であるが、器面が剥離していて調整等は不明である。内面に煤の付着がみられる。49は、中世の包含層から出土した、灰白色を呈するいわゆる「早島式土器」の底部片である。



0 10cm

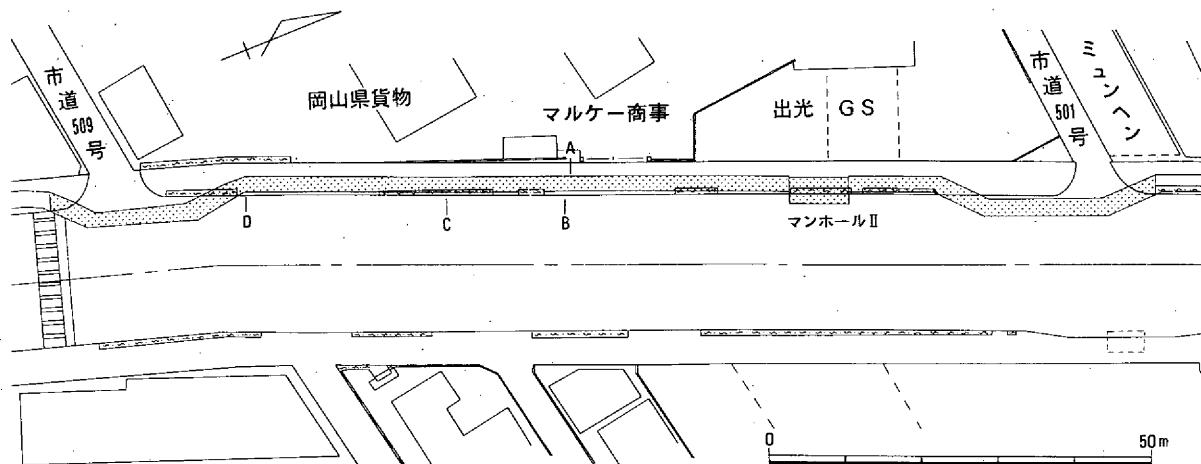
第15図 2区包含層  
出土遺物 (1/4)

### 第3節 南方遺跡

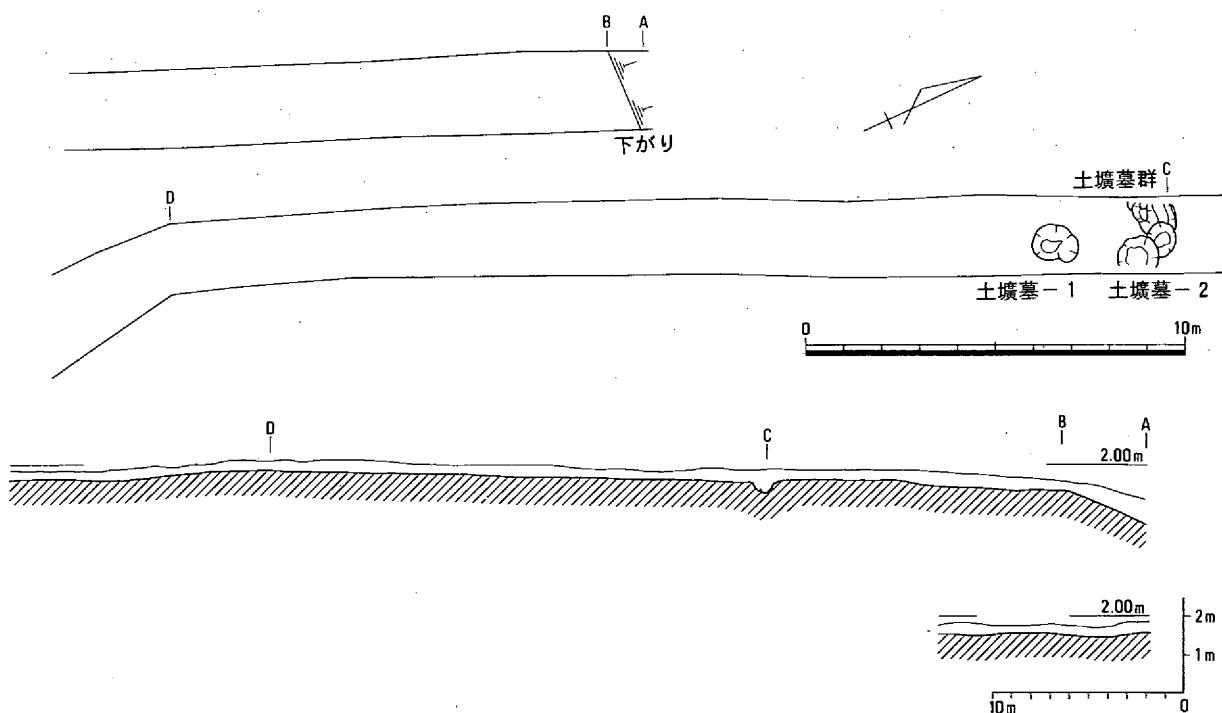
#### (1) 3区

##### 3区の概要

3区は、市道501号北側から市道509号の南側服部皮膚科の北東角までの約150m間である。出光のガソリンスタンド前にマンホールⅡが設置された。3区の北半部はすべて旧河道で、中央部付近において北側に緩やかに下がる河道の肩部が、東一西に調査区を横断して検出されている。南半部では、この河道の肩部から15m程南で、土壌墓群が検出されている。3区南半の基盤層は、河道の肩部から



第16図 3区調査位置図 (1/1,000)



第17図 3区遺構配置図 (1/200)・断面図 (1/400, 1/200)

次第に高くなるが、D地点付近を頂点に南に下がっている。D地点で海拔1.8m、南端部では1.4mを測るが、比較的平坦である。基盤層の上に30~40cm茶灰色粘質微砂の包含層が堆積していた。

#### 土壌墓-1 (第18図、図版9)

3区の中央やや南寄りの土壌墓群の南において検出された土壌墓である。平面形は、北東-南西に長い歪んだ橢円形を呈し、断面は南東側がやや緩やかに下がり、ほぼ平坦な底面にいたる。規模は、長径115cm・短径100cmを測り、検出面からの深さは約20cmである。埋土は、暗茶褐色粘質微砂が一層で、北寄りに人骨および歯の一部が残存していた。人骨は遺存状態

が不良なため計測などできず詳細は不明である。遺物は土器の細片が若干出土しているのみである。50は端部を外方に折り曲げ、体部上半に数条の沈線を巡らせる甕形土器である。

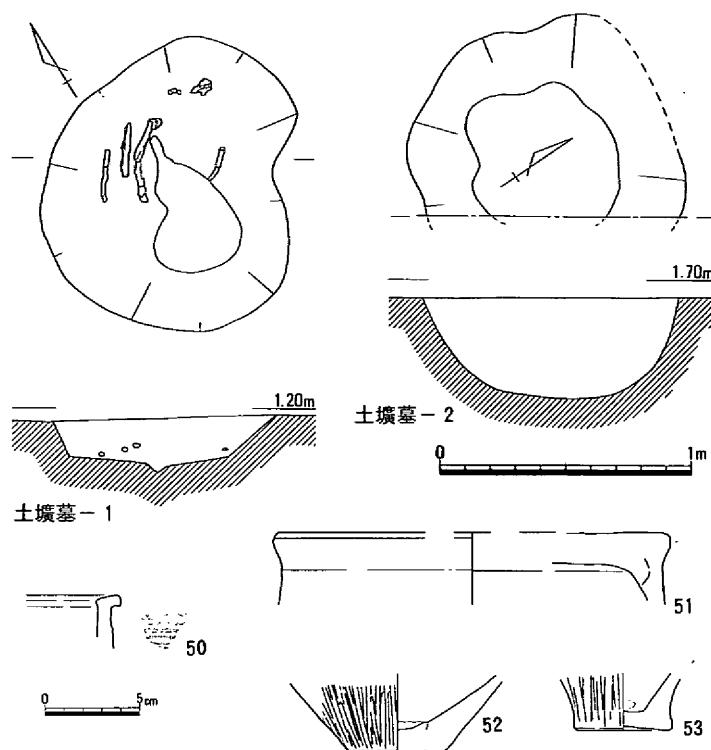
時期は、検出状況から弥生時代後期以前であるが、遺物がほとんどなく、断定できない。

#### 土壌墓-2 (第18図)

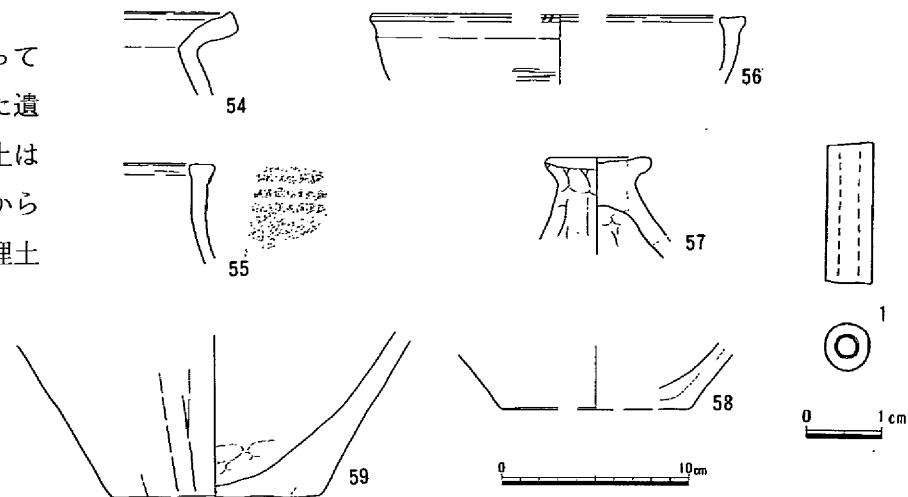
3区の中央やや南寄りの土壌墓-1の北、土壌墓群の南東端において検出された土壌墓で、検出できたのは北西側の3分の2程である。全体の形状は不明であるが、径110cm程・深さ40cmを測り、底面は平坦である。埋土は、暗茶褐色粘質微砂が一層である。出土遺物がなく、遺構の性格や時期などは不明である。

#### 土壌墓群 (第18図)

土壌墓-2と切り合って北西側に数基検出された遺構である。骨などの出土はないが、検出状況などから土壌墓と考えられる。埋土中から土器の細片が若干出土している。51は器面が摩滅しているが、回転台形土器と称されるものである。



第18図 土壌墓-1・2 (1/30)、土壌墓-1  
・土壌墓群出土遺物 (1/4)



第19図 3区包含層出土遺物 (1/4・1/1)

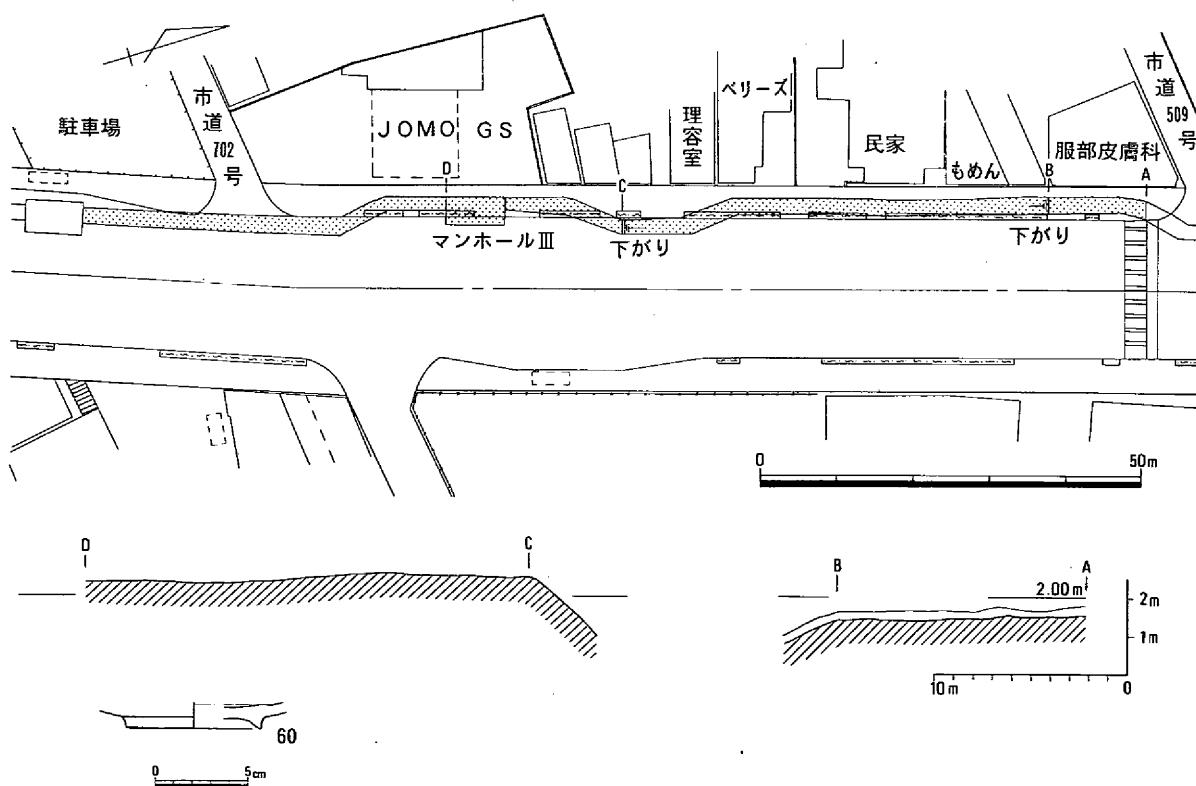
## 遺構に伴わない遺物（第19図）

土壌墓の検出された付近の包含層を中心に、土器などが若干出土している。54は甕形土器の、56は高杯形土器の口縁部片で、56は肥厚した口縁端部の外面に刻み目状の刺突が巡るが、いずれも小片で詳細は不明である。57は指オサエとナデにより調整される蓋形土器のつまみ部分である。また、1は長さ1.8cm・径0.6cm・重さ1.23gを測る管玉で、暗緑色を呈している。

## (2) 4区

## 4区の概要

4区は、市道509号の南側から市道702号の南側にある駐車場の前までの約140m間である。JOMOのガソリンスタンド前にマンホールⅢが設置された。4区の北端から13m程までは、3区南半部の状況が継続していたが、服部皮膚科の南端B地点で、南に緩やかに下がる河道の肩部が東一西に調査区を横断して検出される一方で、JOMOの北10m程では北に下がる河道の肩が東一西に調査区を横断して検出された。調査区が狭小で河道を掘り下げることができなかったため、深さなど詳細は不明であるが、河幅は55mにおよんでいる。この河道を挟んで基盤層のレベルが一変する。河道より北側の基盤層は、海拔1.4~1.5mのほぼ平坦面で、その上に20~30cm茶灰色粘質微砂の包含層が堆積していた。一方河道南側の基盤層は海拔2.3~2.6mと1m程高くなり、弥生時代の包含層は後世に削平され、遺構も遺存していない。マンホールⅢでは黄灰色粘質微砂の基盤層のすぐ上に、中世の包含層とみられる黄茶灰色粘質微砂が20cm前後確認された。60はこの包含層から出土した土器で、黄灰色を呈するいわゆる「早島式土器」の椀の高台部片である。

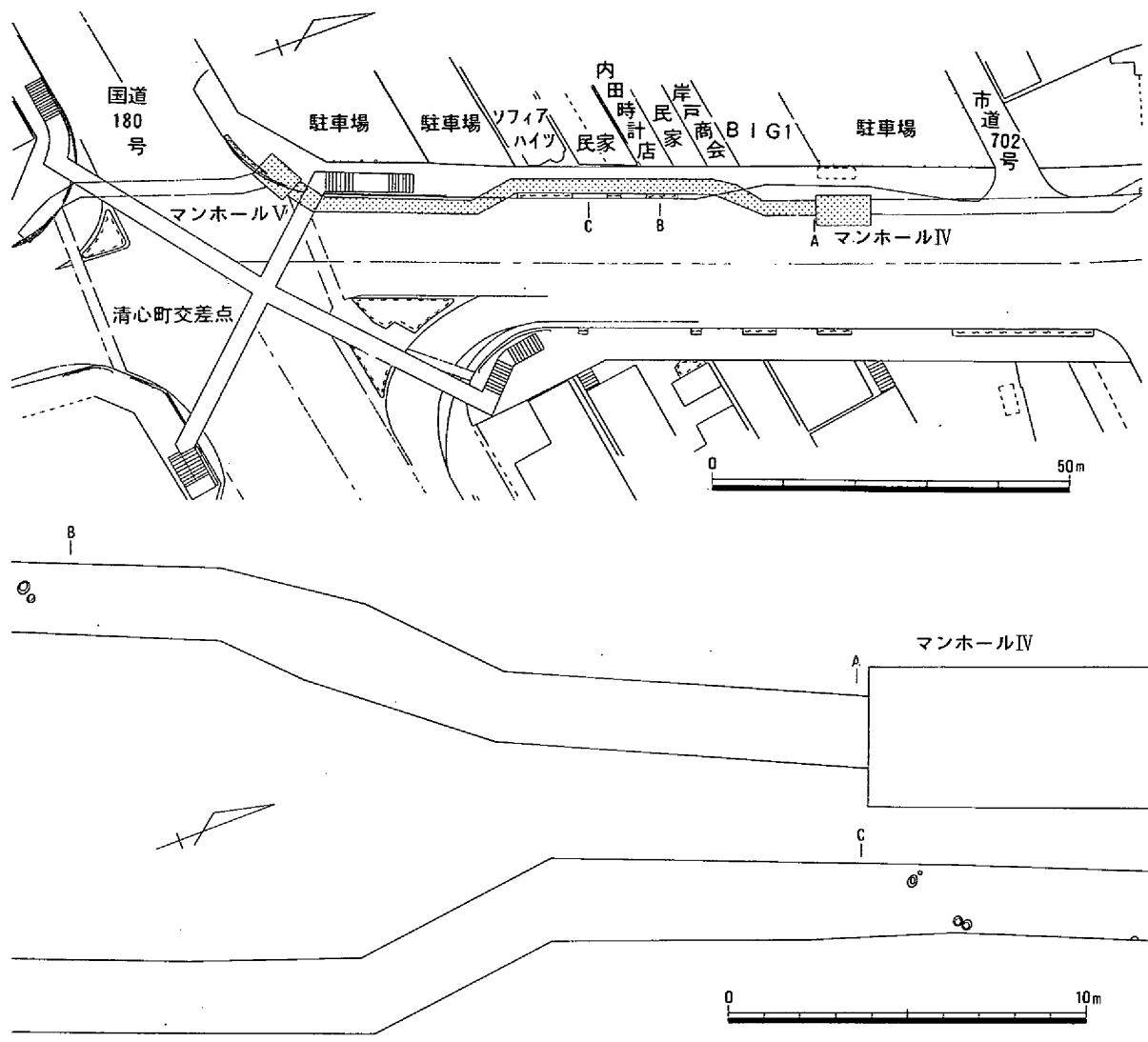


第20図 4区調査位置図(1/1,000)・断面図(1/400, 1/200)・出土遺物(1/4)

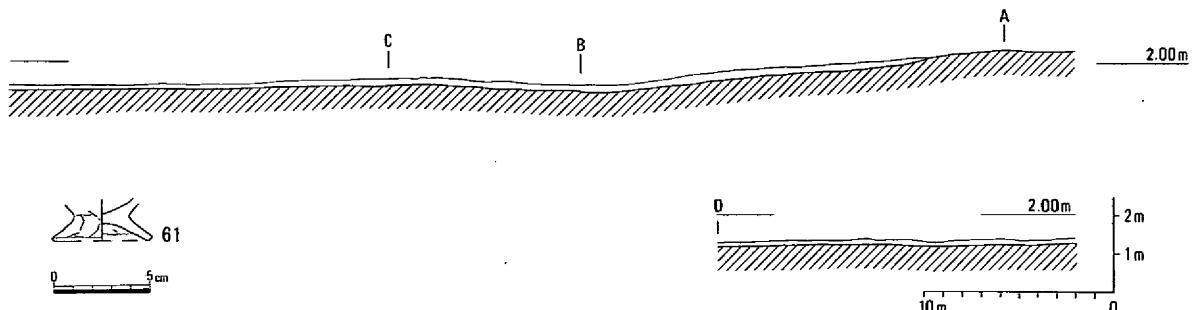
(3) 5区

5区の概要

5区は、市道702号の南側にある駐車場の前から清心町交差点の北側までの約85m間である。北端の駐車場前にマンホールIVが、南端の清心町交差点北角にマンホールVが設置された。北端のマンホー



第21図 5区調査位置図 (1/1,000)・遺構配置図 (1/200)



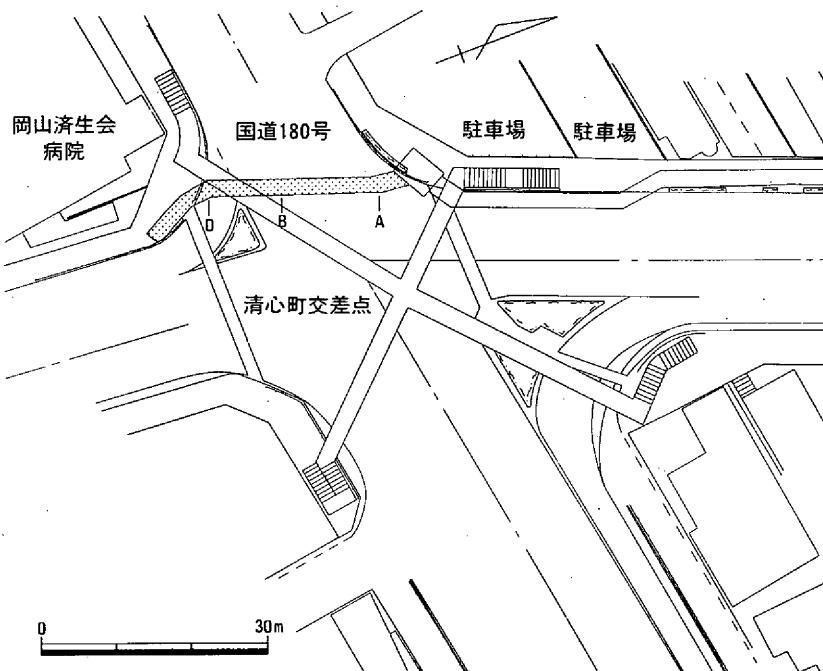
第22図 5区断面図 (1/400、1/200)・出土遺物 (1/4)

ルIV付近までは4区南部の状況が継続し、遺構等は検出されないが、マンホールIVから25m程南の内田時計店前などのB地点からC地点にかけて、数基のピットが検出された。ピットは残りの良いものでも直径30cm程で、深さも10cm前後を測るのみで、出土遺物はなく性格等は不明である。5区の基盤層はA地点から緩やかに下がりはじめ、その上に15cm程包含層が堆積していたが、遺物はほとんど含まれていない。基盤層は、北端のマンホールIVで海拔2.3m、南端のマンホールVでは海拔1.1m程である。61はマンホールVの包含層から出土した、いわゆる製塩土器の脚部片である。

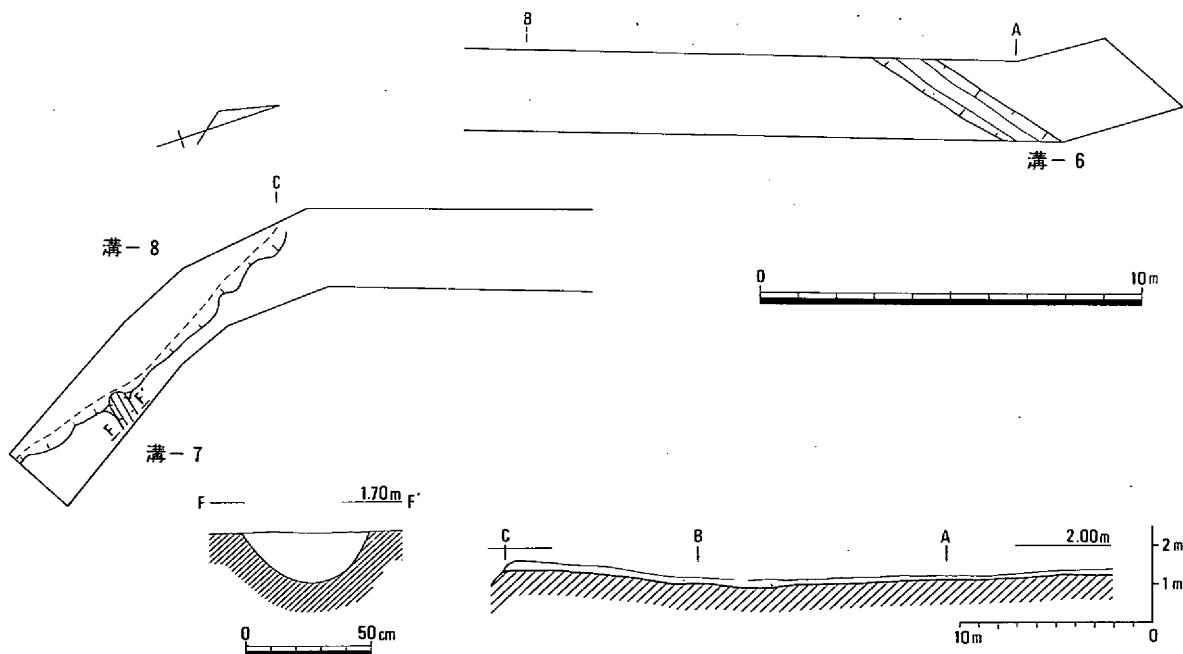
#### (4) 6区

##### 6区の概要

6区は、清心町交差点北角から国道180号線を横切り、岡山済生会病院の北東角までの約35m間である。遺構は、南端部において条里の溝と推定される南-北方向の溝の東肩部と、これに流入するとみられる東-西方向の溝が検出されたほか、調査区の北端近くで北東-南西に流走する溝が検出されている。6区の基



第23図 6区調査位置図 (1/1,000)



第24図 6区遺構配置図 (1/200)・断面図 (1/400, 1/200)・溝-7断面図 (1/30)

盤層は、中央付近で最も低くなり、海拔1.0m前後にある暗茶褐色のピート層が相当し、その上に10cm程茶褐色粘質微砂の包含層が堆積していた。南半は南に向かい次第に高くなり、明茶褐色粘質微砂の基盤層が海拔1.5m前後にある。その上に、15cm程暗褐灰色粘質微砂の包含層が堆積していた。

#### 溝-7（第24図、図版12-3）

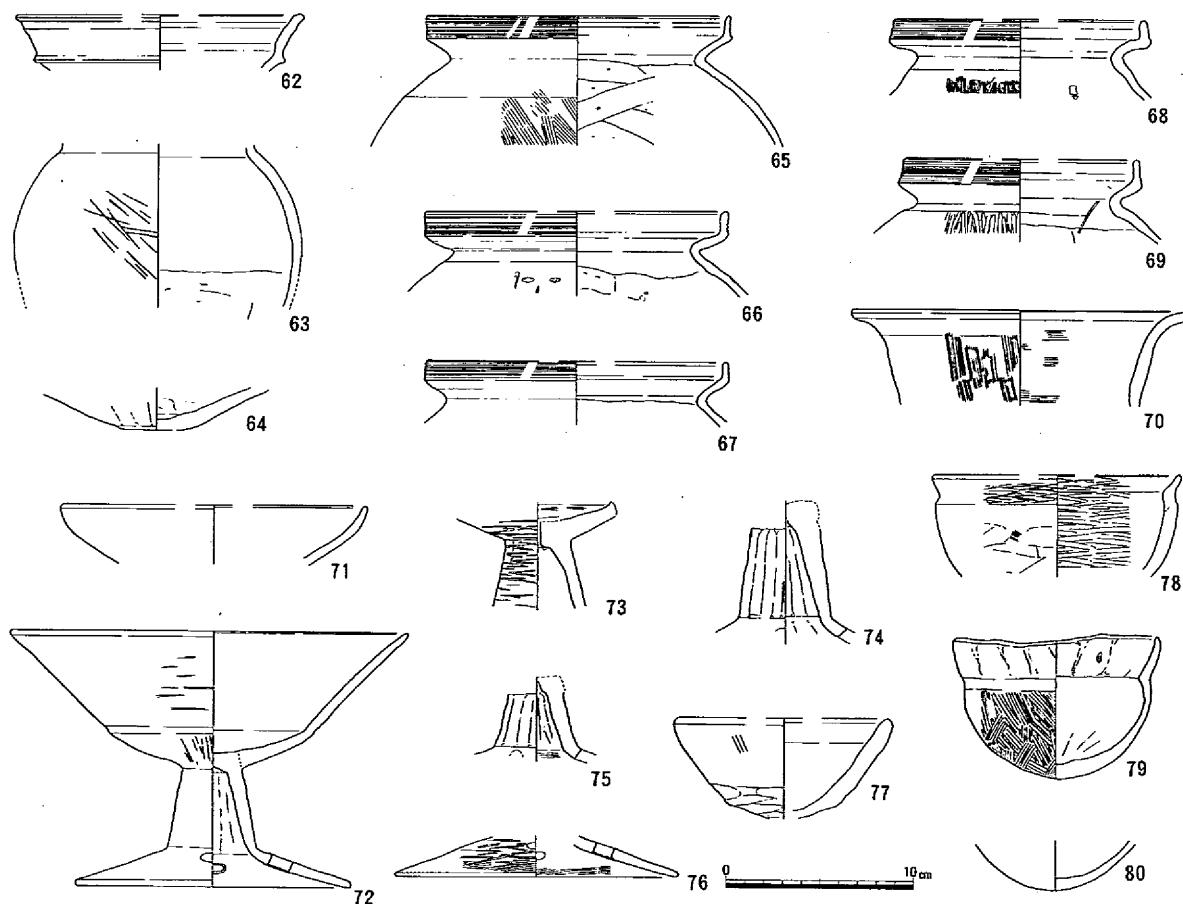
6区の南端近くで検出された東-西に流走する溝で、溝-8に合流していた。検出できたのが僅か1m足らずで、詳細は不明である。検出面での規模は、幅50cm・深さ20cmを測り、底の高さは海拔1.4m程である。埋土は灰色粘質土が一層で出土遺物はないが、検出状況から平安時代後期と推定される。

#### 溝-8

6区の南端で検出された、南-北方向に流走する溝の東肩部とみられる遺構である。部分的な検出で詳細は不明であるが、断面は肩部から急に下がる。肩部の高さは海拔1.4m程である。埋土は灰色粘質土で、細片で図示することはできなかったが、平安時代後期の土器片が出土している。

#### 遺構に伴わない遺物（第25図）

いずれも茶褐色粘質微砂の包含層から出土したもので、65～69は「く」の字状に外反した口縁端部を上方に拡張し、端部外面に5～8条の櫛描き沈線が巡る甕形土器である。72～76は高杯形土器で、72・75・76は水漉し粘土を用い、72・76は4か所、75は3か所、脚裾部に円孔を穿っている。78・79は鉢形土器で、78は口縁部から体部内面を丁寧にヘラミガキし、外面は工具により丁寧にナデている。口縁部から外面には丹塗りが施されている。79は指オサエおよびナデにより整えた後、外面は丁寧にハケメ調整している。黒斑が認められ、口縁内部に1個糞痕が残る。時期は古墳時代初頭である。



第25図 6区包含層出土遺物（1／4）

## 第4章 小 結

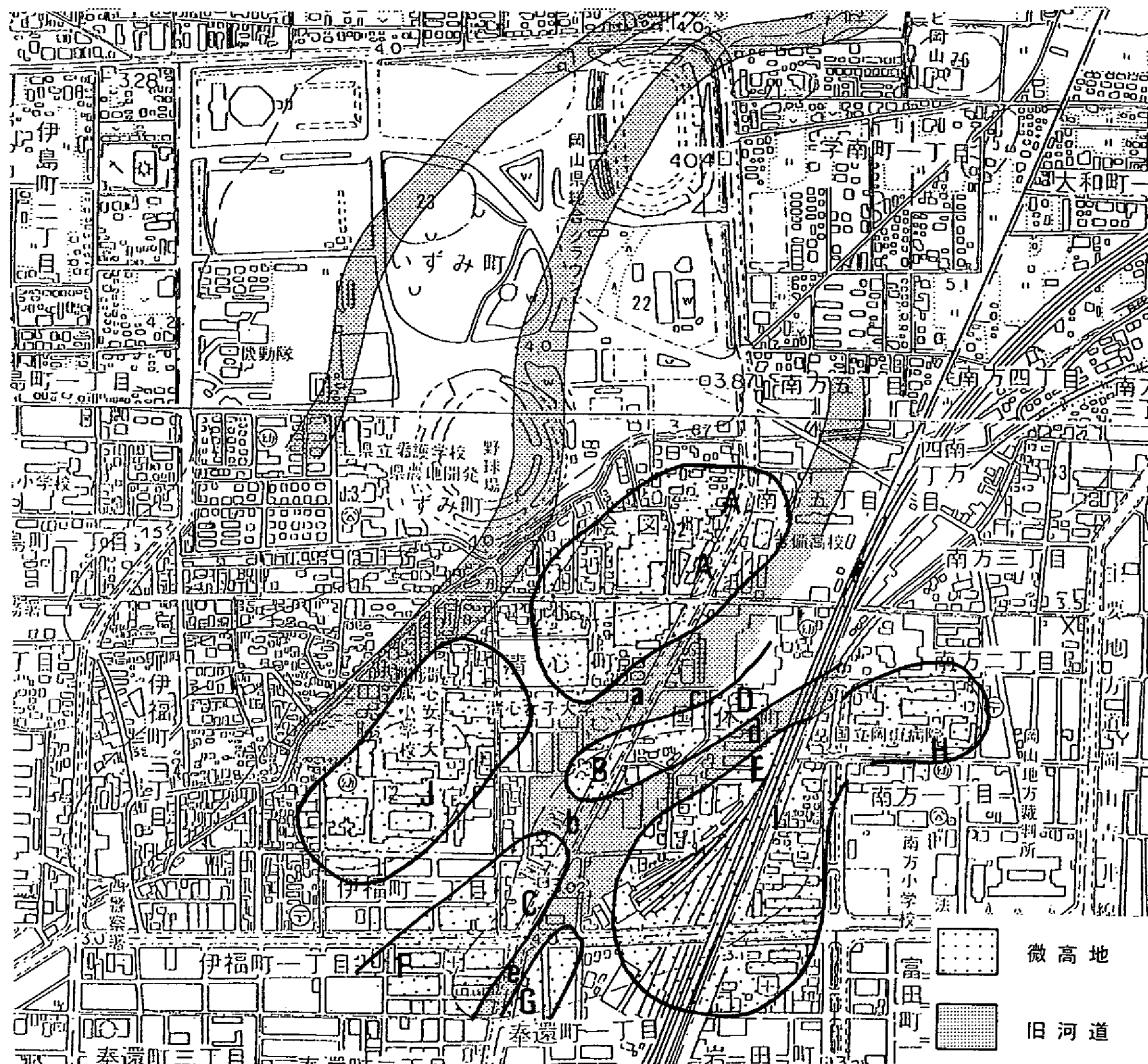
今回の絵図遺跡・南方遺跡の調査は、その対象地が岡山市絵図町から清心町まで広範囲におよんでいるものの、幅は僅か2m程の調査区であり、ほとんど長大なトレンチ調査とでもいべきものである。このため、土壌や柱穴など集落跡の一部とみられる遺構は検出されたものの、詳細な性格などについては明らかにすることが困難であった。しかし、第3章に述べているように1区から2区にかけてと、3区から4区にかけて微高地が検出された。さらに、4区から5・6区にかけては上面が削平されているとみられる微高地部が認められ、その間には調査地を横切って2本の旧河道が所在していることが明らかになった。また、今回の調査以外にも周辺部においては、民間開発や病院の建て替えおよび建設などで大規模な発掘調査が行なわれ、岡山市街地の北西部一帯に広がる、南方遺跡や絵図遺跡をはじめ、津島遺跡・上伊福遺跡などの微高地や旧河道の在り方が明らかになりつつある。そこで、今回の調査の結果をもとに、最近の周辺部における調査の成果などを踏まえ、絵図遺跡・南方遺跡周辺における弥生時代頃の旧地形について検討を試みることができた。

今回の絵図遺跡の調査で、1区から2区の北部にかけては、微高地上に溝や土壌など、弥生時代から古墳時代の集落跡の一部とみられる遺構が検出された。(A)これは前年度キャブ工事に伴い発掘調査され、古墳時代から弥生時代の土壌や井戸などにみつかった(註1)微高地(A)と一体になるものであり、1区南部の基盤層直上の堆積層は、植物珪酸体分析の結果では、水田土壌である断定はできなかったものの、微高地から低地にかけての移行部に堆積する層であることが明らかになっている。

一方、南方遺跡の調査では、3区南部の微高地上では弥生時代の土壌墓群などの遺構が検出され、(B)4区の南部から5区の北部にかけては、基盤層が1m前後も高くなっているため、後世の削平を受けたためか、僅かにごく浅い柱穴数基を確認したのみであるが、微高地が形成され、(C)5区南部から6区にかけては、湿地の堆積層が弥生時代の基盤層になっている。

旧河道は、2区で北側の肩部が、3区で南側の肩部が確認された。掘り下げることができなかつたため、深さなど詳細は不明であるが、河幅はこの付近で100m近くにおよぶと推定される。(a)この旧河道により、絵図遺跡と南方遺跡の微高地が分けられている。また、南方遺跡の4区では、これも掘り下げることができず、深さなどが不明なものの河幅50m程の旧河道の両肩部が確認され、(b)南方遺跡と称されている微高地は、間に河道が入り複数の微高地の分かれることが明らかになった。

南方遺跡の微高地(B)や旧河道(a)・(b)は、岡山市教育委員会が民間のマンションや病院施設の建設などに伴う南方遺跡蓮田調査区の発掘調査(註2)においても、弥生時代の竪穴住居など集落後の一一部が微高地上に検出され、(D)その微高地を挟んで旧河道(c)・(d)が確認された。これらの微高地および旧河道は一体のものであることが推定される。岡山市教育委員会の旧河道(c)の発掘調査においては、深さ1.2m以上におよぶ旧河道の掘り下げが行われ、弥生時代中期を中心とした土器や石器・骨角器などと共に、おびただしい量・種類の木器・木製品が非常に良好な遺存状態で出土し、当時の木製品における高度な技術の一端から明らかにされている。また、南方遺跡の一部であるJR線の東側は、古くから遺物の出土などにより、遺跡の周知されているところであるが、山陽新幹線建設時には、市道移設工事に伴う調査で、弥生時代前期から中期を中心とする竪穴住居・土壌などが微高地上(I)に検出されている。さらに、国立岡山病院看護婦宿舎建設に伴う発掘調査においても弥生時代中期の前葉を



- |                         |                       |            |
|-------------------------|-----------------------|------------|
| A. 絵図遺跡                 | 一般国道53号キャブシステム建設      | 1994年      |
| A'. 絵図・大徳寺遺跡            | 一般国道53号キャブシステム建設      | 1993年      |
| B. 南方遺跡                 | 一般国道53号キャブシステム建設      | 1994年      |
| C. 南方遺跡                 | 一般国道53号キャブシステム建設      | 1994年      |
| D. 南方(国体開発)遺跡           |                       | 1992~1994年 |
| 南方(済生会)遺跡 蓮田調査区         |                       | 1993年~     |
| E. 南方(国体開発)遺跡           |                       | 1993~1994年 |
| F. 上伊福・南方(済生会)遺跡 立花Ⅰ調査区 |                       | 1992年      |
| G. 上伊福・南方(済生会)遺跡 蓮田南調査区 |                       | 1992年      |
| H. 南方遺跡                 | 国立岡山病院看護婦宿舎建設ほか       | 1980年      |
| I. 南方遺跡                 | 山陽新幹線建設に伴う市道移設工事      | 1969・1970年 |
| J. 上伊福九坪遺跡              | ノートルダム清心女子大学カリタスホール建設 | 1984年      |

第26図 周辺微高地推定図 (1/10,000)

中心とする竪穴住居・貯蔵穴などが検出され、微高地(H)における集落跡の一部が明らかになっている。

このほか、岡山市教育委員会は、岡山済生会病院の管理棟・立体駐車場建設に伴う立花I調査区において微高地(F)を、看護婦寮に伴う蓮田南調査区において微高地(G)と河道(d)の肩部を確認している。

(註3)また、ノートルダム清心女子大学構内では、カリタスホールなどの建設に伴い発掘調査が行なわれ、弥生時代中期後半を中心とする竪穴住居などの遺構が検出され、(註4)上伊福遺跡九坪遺跡の微高地(J)の一部が明らかにされている。

この結果、南方遺跡は、(B)・(D)で確認された微高地と(E)で確認された微高地に分かれるとみられるが、(E)の微高地と(I)・(H)で確認された微高地とは同一の微高地であるか否かは不明である。また、(C)の微高地と(F)の微高地は、同一とみられるが、(G)は別の微高地であると推定される。

### 註

1. 岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財報告』24 1994年
2. 岡山市遺跡調査団『上伊福・南方(済生会)遺跡現地説明会資料』1993年  
岡山市遺跡調査団『南方(国体開発)遺跡—第二回—現地説明会資料』1994年
3. 岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財報告』25 1995年
4. 岡山市遺跡調査団『南方遺跡発掘調査概報』1971年
5. 岡山県教育委員会「南方遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』40 1981年  
岡山県教育委員会・岡山市遺跡調査団『南方(国立病院)遺跡発掘調査報告』1981年
6. 岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財報告』14 1984年  
中野雅美・根木修「上伊福九坪遺跡」『岡山県史』第18巻考古資料岡山県 1984年

## 付載 植物珪酸体からみた稻作の検討

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

絵図・南方遺跡（岡山県岡山市に所在）は、岡山平野北部に位置する。岡山平野の西岸は、旭川から供給された土砂により幾つかの自然堤防状の微高地が形成され、この微高地上に遺跡が分布している。本遺跡の周辺には、弥生時代以降になると津島遺跡・津島江道遺跡・南方遺跡など数多くの遺跡が分布し、集落跡や水田跡が検出されている。

本遺跡では、微高地部分で弥生時代後期前半の遺構や遺物が検出された。また、微高地から低地への移行部で時期不明であるが、水田土壤の可能性がある堆積層が確認された。そこで、この堆積層が水田土壤であるのかを確認するために、植物珪酸体分析を実施した。

### 1. 試料

試料は、水田土壤の可能性がある堆積層より面的に採取された4試料である。試料の層相は、試料番号1が黒褐色砂質シルト、試料番号3・5・6が黄灰色粘土～シルトである。（表1）。

表1 分析試料

試料番号	試料採取地点・試料名	層相
1	1区OSK前	土壤サンプル1 黒褐色砂質シルト
3	1区OSK前	土壤サンプル3 黄灰色粘土質シルト
5	1区国体町交差点下	土壤サンプル5 黄灰色粘土質シルト
6	1区国体町交差点下	土壤サンプル6 黄灰色シルト質粘土

### 2. 分析方法

湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理、沈定法、重液分離法の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体を近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表および植物珪酸体組成図として表示する。図中の出現率は、短細胞珪酸体・機動細胞珪酸体ともそれぞれの総数を基数として百分率で算出した。

### 3. 植物珪酸体の産状

各地点の計数結果を表2、植物珪酸体組成を図1に示す。いずれの試料からも植物珪酸体が検出される。しかし、保存状態は悪く、表面に溶食痕を有するものも認められる。

植物珪酸体組成は4試料とも類似しており、イネ属、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科が検出される。中でもタケ亜科やウシクサ族の割合が高い。イネ属の出現率は概ね短細胞珪酸体が1%前後、機動細胞珪酸体が10%前後である。

### 4. 考察

調査対象とした堆積層は、微高地から低地にかけての移行部に堆積する。本層ではイネ属が認められ、その出現率は短細胞珪酸体で1%前後、機動細胞珪酸体で10%前後であった。

これまで岡山平野内部では、本遺跡北方に位置する中溝遺跡や津島遺跡、足守川流域の津寺遺跡などで、弥生時代以降の水田層について自然科学分析調査が実施されている。（未発表）本遺跡と同じ流域である中溝遺跡では、弥生時代後期～古墳時代前半期の水田層が検出されており、イネ属短細胞珪酸体がわずかであったものの、機動細胞珪酸体が40%前後の出現率を示した。また、津島遺跡4区で確認された弥生時代前期の水田跡では、イネ属に由来する植物珪酸体がほとんど検出されなかった。一つの指標として中溝遺跡の水田層の出現率と比較すれば、今回の結果は低い。しかし、調査した堆積層の上位に攪乱された表土が堆積していることを考えると、本層上部は攪乱・削平されている可能性がある。そのため、イネ属の存在を考慮すれば、本層は水田土壤なのかもしれない。今回の調査では、同一層について複数の試料から検討する事により層内でのイネ属の産状を知ることができた。今後は、さらに上下の層も対象とした層位的な変化を検討することにより、本層での稻作の有無を明らかにできると思われる。また、稻作はある程度広がりを持って行われる生業活動であるため、地域的な検討も必要である。したがって、旭川西岸における分析調査例を蓄積していくことが重要である。

なお、今回の植物珪酸体組成では、イネ属以外にタケ亜科・ウシクサ族・ヨシ属も比較的多く検出されている。これらの種類は、周辺地域に生育していたイネ科植物に由来すると考えられる。すなわち、微高地上など比較的乾いたような場所にタケ・ササ類などやススキ属、低地で湿った場所にヨシ属などのイネ科植物が生育していたと考えられる。

#### 〈引用文献〉

近藤鍊三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析、その特性と応用、第四紀研究、25, p.31-64.

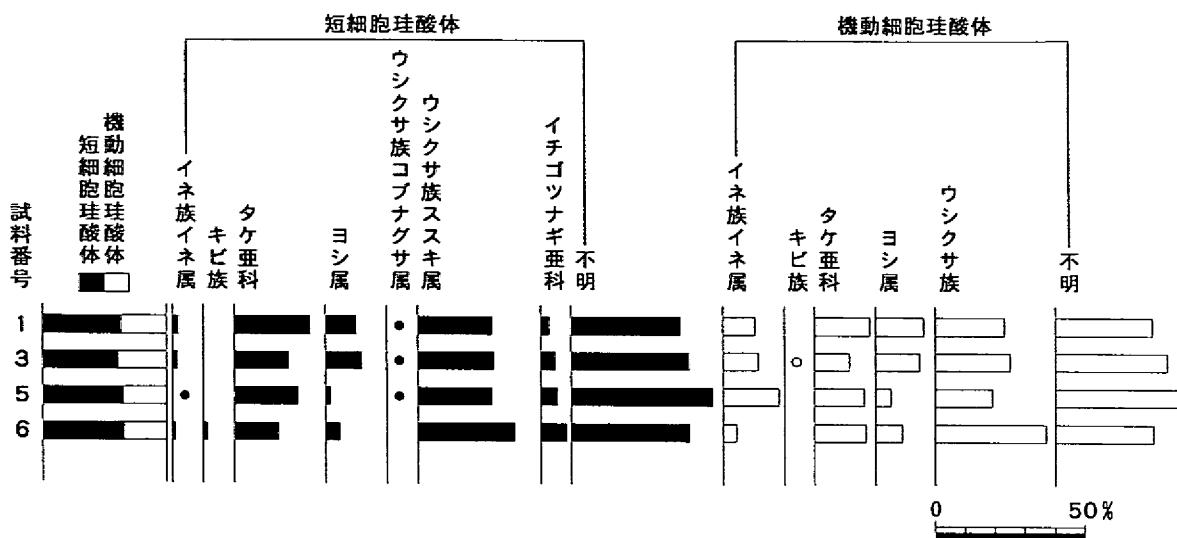


図1 植物珪酸体組成  
出現率は、短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。  
なお、●○は1%未満の種類を示す。

表2 植物珪酸体分析結果

種 類	試 料 番 号	1	3	5	6
<b>イネ科葉部短細胞珪酸体</b>					
イネ族イネ属		5	4	2	3
キビ族		-	-	-	3
タケ亜科		61	44	44	37
ヨシ属		25	30	3	12
ウシクサ族コブナグサ属		1	1	2	-
ウシクサ族ススキ属		59	61	51	82
イチゴツナギ亜科		7	12	12	22
不明キビ型		29	43	49	67
不明ヒゲシバ型		13	16	11	13
不明ダンチク型		46	37	39	21
<b>イネ科葉身機動細胞珪酸体</b>					
イネ族イネ属		15	18	21	6
キビ族		-	1	-	-
タケ亜科		26	18	19	23
ヨシ属		23	23	6	12
ウシクサ族		33	39	22	50
不明		46	58	48	44
<b>合 計</b>					
イネ科葉部短細胞珪酸体		246	248	213	260
イネ科葉身機動細胞珪酸体		143	157	116	135
総 計		389	405	329	395

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	えずいせき・みなみがたいせき						
書名	絵図遺跡・南方遺跡						
副書名	一般国道53号キャブシステム建設工事に伴う発掘調査						
卷次							
シリーズ名	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	110						
編集者名	内藤 善史						
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター						
所在地	〒701-01 岡山県岡山市西花尻1325-3				TEL 086-293-3211		
発行機関	建設省岡山国道工事事務所 岡山県教育委員会						
所在地	〒700 岡山県岡山市鹿田町2-4-36				TEL 086-226-1051		
	〒700 岡山県岡山市内山下2-4-6				TEL 086-224-2111		
発行年月日	1996年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査機関	調査面積	調査原因
絵図遺跡 南方遺跡	岡山県 岡山市 絵図町 清心町	33 201	34° 40' 20"	133° 55' 20"	19940401 ~1130	1,234.4 m <sup>2</sup>	一般国道53号キャブシステム建設工事に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
絵図遺跡 南方遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 平安時代	溝 土壙墓 土壙	弥生土器・土師器	絵図遺跡と南方遺跡の間にある旧河道を確認		



1. 1区調査前の  
状況（北東から）



2. 1区調査時周囲  
の状況  
(東から)



3. 1区調査時周囲  
の状況  
(南西から)

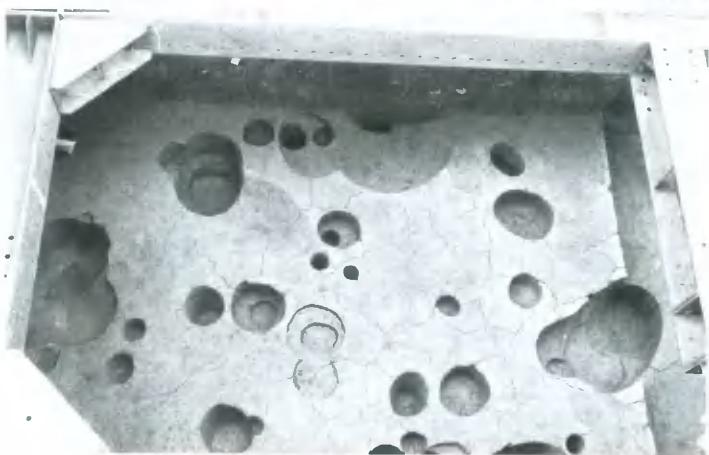
図版 2



1. 1区マンホール  
[作業風景  
(東から)



2. 1区マンホール  
[北半  
(東から)



3. 1区マンホール  
[南半  
(東から)



図版 4



1. 1区南部（北東から）



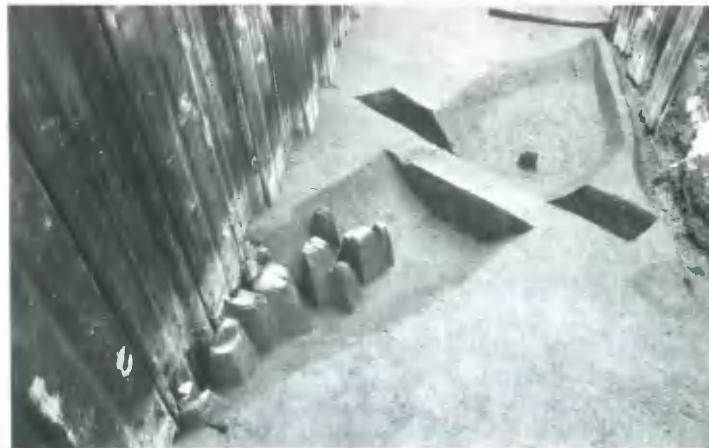
2. 1区溝-2検出  
状況（北東から）



3. 1区溝-2  
(北東から)



図版 6



1. 2区溝-3  
(南西から)



3. 2区溝-3  
(南西から)



3. 2区溝-4  
(南西から)

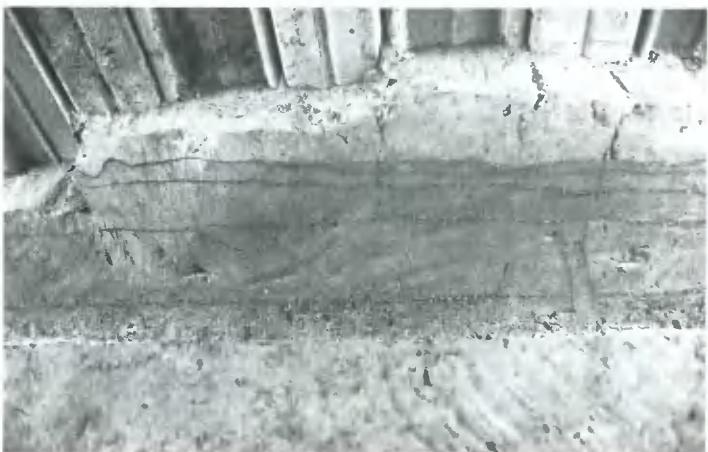
1. 2区溝-5断面  
(西から)



2. 2区溝-5  
(北東から)



3. 2区西壁断面  
(東から)



図版 8



1. 2区グリッド(a)断面 (東から)



2. 2区グリッド(b)断面 (東から)



3. 2区グリッド(c)断面 (東から)



4. 2区グリッド(d)断面 (東から)



5. 2区グリッド(e)断面 (東から)



6. 2区グリッド(f)断面 (東から)



1. 3区土壇墓-1  
半掘（北東から）



2. 3区土壇墓-1  
内人骨（北西から）



3. 3区土壇墓-1  
(北西から)

図版10



1. 3区土壌墓群  
(北東から)



2. 3区作業風景 (北東から)



3. 3区全景 (南から)

1. 4区作業風景（北東から）



2. 5区マンホール  
Ⅳ 東壁断面  
(北西から)



3. 5区マンホール  
Ⅳ 東壁断面  
(北西から)



図版12



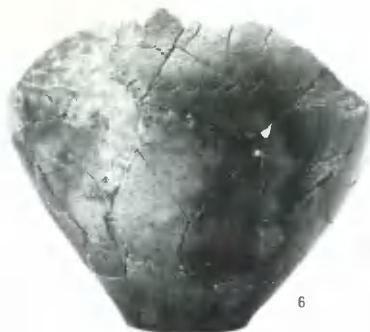
1. 5区マンホールIV（南から）



2. 5区北壁断面  
(南から)

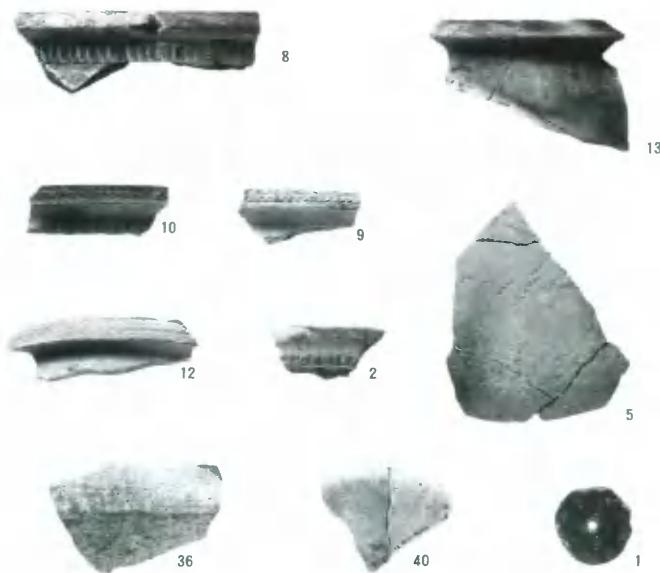


3. 6区溝-7・8  
(南から)

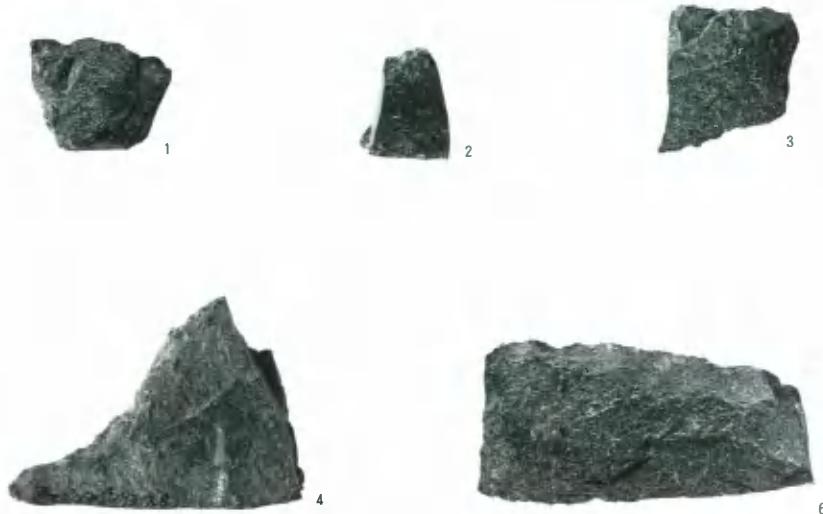


絵図遺跡出土土器（1）

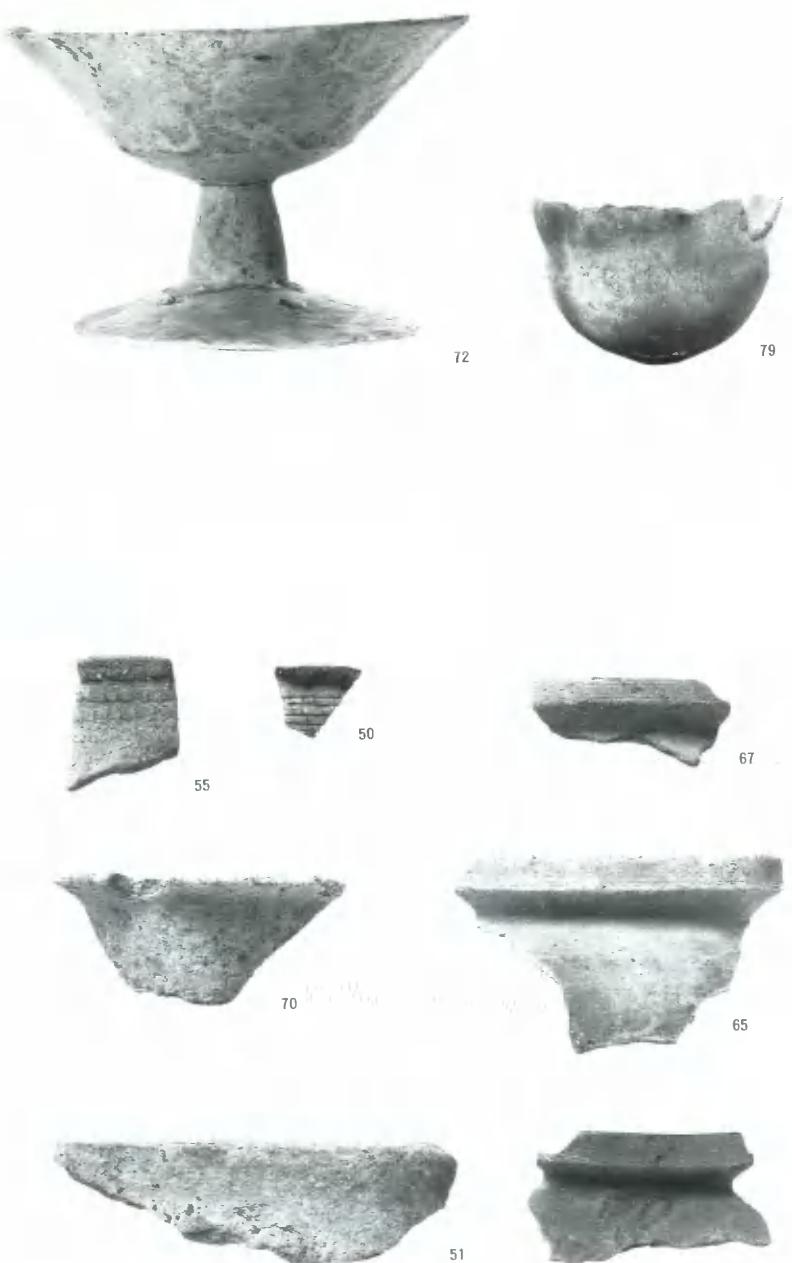
図版14



1. 絵図遺跡遺跡出土土器 (2)

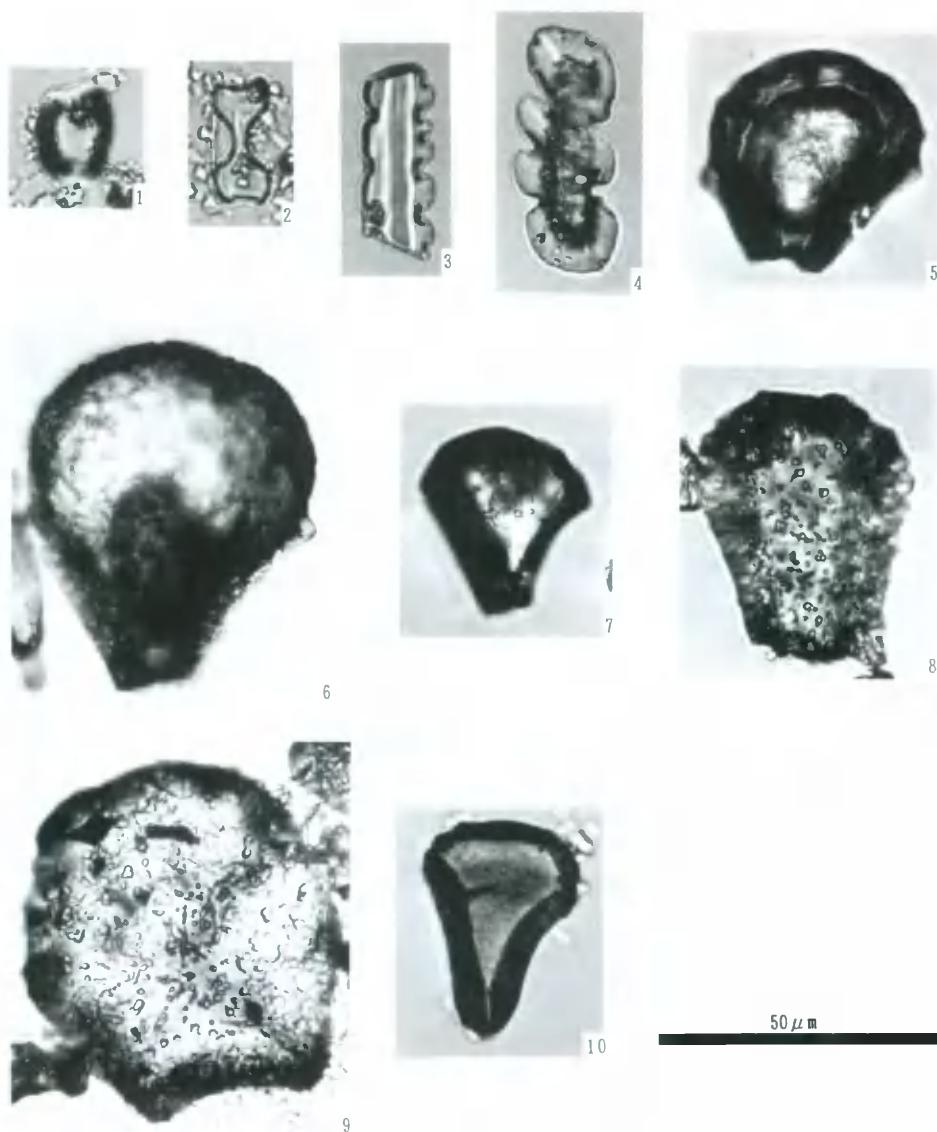


2. 絵図遺跡出土石器



南方遺跡出土土器

## 図版16



1. ヨシ属短細胞珪酸体（試料番号 1）  
2. ススキ属短細胞珪酸体（試料番号 1）  
3. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（試料番号 3）  
4. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（試料番号 6）  
5. イネ属機動細胞珪酸体（試料番号 1）  
6. イネ属機動細胞珪酸体（試料番号 6）  
7. イネ属機動細胞珪酸体（試料番号 5）  
8. タケ亜科機動細胞珪酸体（試料番号 3）  
9. ヨシ属機動細胞珪酸体（試料番号 1）  
10. ウシクサ族機動細胞珪酸体（試料番号 5）

植物珪酸体

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 110

絵 図 遺 跡  
南 方 遺 跡

一般国道53号キャブシステム  
建設工事に伴う発掘調査

1996年3月20日 印刷

1996年3月31日 発行

編集 岡山県古代吉備文化財センター

発行 建設省岡山国道工事事務所

岡山県教育委員会

印刷 岡山県農協印刷株式会社